

# 北海道一斉海岸調査 2009

期間:2009年4月1~15日

# 北海道一斉海岸調査 2009

2006年の春、世界自然遺産登録地・知床を中心とした海岸に、真っ黒な重油に汚染され無惨な姿となった多数の海鳥の死体が漂着しているのを見つけました。その数、実に5,600羽(当支部の集計による)。

この未曾有の惨事を受け、「オホーツク海岸全域での漂着調査が必要」との声が強まり、全道から多くのボランティアが集まって調査が実施されました。この動きはオホーツクのみならず、稚内から根釧地域にも広がり、最終的には185名もの人々が参加しての「道東・道北海岸一斉調査」という、これまでにない、非常にスケールの大きなものとなりました。

数多くの有志が集ったこの調査によって様々な情報が得られましたが、5000を超える命が、いつ、どこで、どうして奪われることとなったのか、その解明には至らず、残念ながらいまだ「原因不明」とされています。

しかしながら、この調査は決して無駄ではありませんでした。今回の調査をきっかけに、油流出事故発生などの緊急時はもちろん、何より平時のデータをしっかりと取っておくことの重要性について、理解が深まりました。そして、「これを続けよう」という声が自然発生的に沸き上がったのです。

この海岸調査は体制や方法を現実に即した無理のないものに変更した上で、07、08年と続けて実施されました。道内全域を調査対象とし、各地の海岸において貴重なデータが収集されました。

今年も一斉海岸調査を実施します。調査方法は基本的に昨年と同様です。詳しくは、以下に挙げる「調査要領」等の資料をお読み下さい。身近な海のことを知ることが、身近な海とそこに棲む生き物を守ることにつながります。一年に一度でも、まずは行動を。

---

## 【基本的な考え方】

### ＜身近な海と海鳥のために＞

当初は知床の件があったため、オホーツク沿岸域全体を調査することを一義的な目標として遠路はるばる集まって頂きましたが、現在は「地元の海は地元住民が守る」ことをテーマに、それぞれ自分の地域や、思い入れのある海岸を見回って頂いています。対象は、「北海道全域」とします。なお、油汚染問題は必ずしも海域に限ったことではありませんが、この調査は対象を海岸に絞らせて頂きます。ご了承下さい。

### ＜実施内容は各自で決める＞

基本的な調査方法や、調査に使用する野帳や図面等は統一しますが、いつ、どこで、誰が・・・といった基本的な事項については、参加者ご自身で自由に設定して頂くこととし

ました。  
こちら側で調整は致しませんので、ご了承下さい。  
「一斉調査日」は特に設けません。  
各自、4月1～15日の間に一回以上実施して頂ければ結構です(複数回でももちろん歓迎)。

#### <バードウォッチャーによる調査>

当初は「可能な方のみ」沿岸性鳥類のカウント調査を行って頂きましたが、現在は「カウント調査は原則実施」としています。

このため、複数人で実施される場合は、必ず中に一人は野鳥観察経験者(基本的な海鳥の識別ができる人)が加わるようにして下さい。

お一人で実施される場合は、ご本人が野鳥観察経験者であることが前提となります。

未経験者の方は、経験者の方と一緒に調査して下さい。

経験者の方も、野外識別だけでなく、落ちていた羽や骨から種の同定ができるようになる・・・など、目標を高く設定し、

実習を兼ねた場としてさらなるスキル向上に努めて下さい。

もちろん、野外識別力の向上は、海岸調査の精度向上に直接的に寄与すると考えております。

より高い識別力を獲得できるよう、各自積極的に取り組んでください。

毎年このような調査を続けることで、ゆくゆくは海岸調査のエキスパートが道内各地にいるという状況を目指したいと思っています。

お互い、頑張りましょう。

---

<調査のやり方、調査結果の送り先は以下の要領をご確認下さい>

[【調査要領\(PDF ファイル:64KB\)】](#)



調査結果は4月末日までに必ずお送り下さい(調査要領参照)。  
集計後、速報をブログにて公表します。

---

<調査図面のダウンロードはこちらから>

[【北海道立地質研究所】](#)

ページ下部にある、「北海道海岸環境情報図 ver.1.06 (32.9MB)」をダウンロードして、調査に必要な箇所の図面をプリントアウトしてご使用下さい。

ナローバンド環境の方は、国土地理院発行の1/25,000 や 1/50,000 地形図、または環境省(環境庁)発行の「自然環境保全基礎調査用メッシュマップ(1/50,000)」などを利用して頂いても結構です。

以下の「電子国土ポータル」から、調査地域の地図をプリントアウトして頂くことも可能です。

[【電子国土ポータル】](#)

調査図面はデータ提出の際に必ず添付して下さい。

---

<調査野帳(記録用紙)のダウンロードはこちらから>

[【PDFファイル\(636KB\)】](#)

[【エクセル\(xls\)ファイル\(27KB\)】](#)

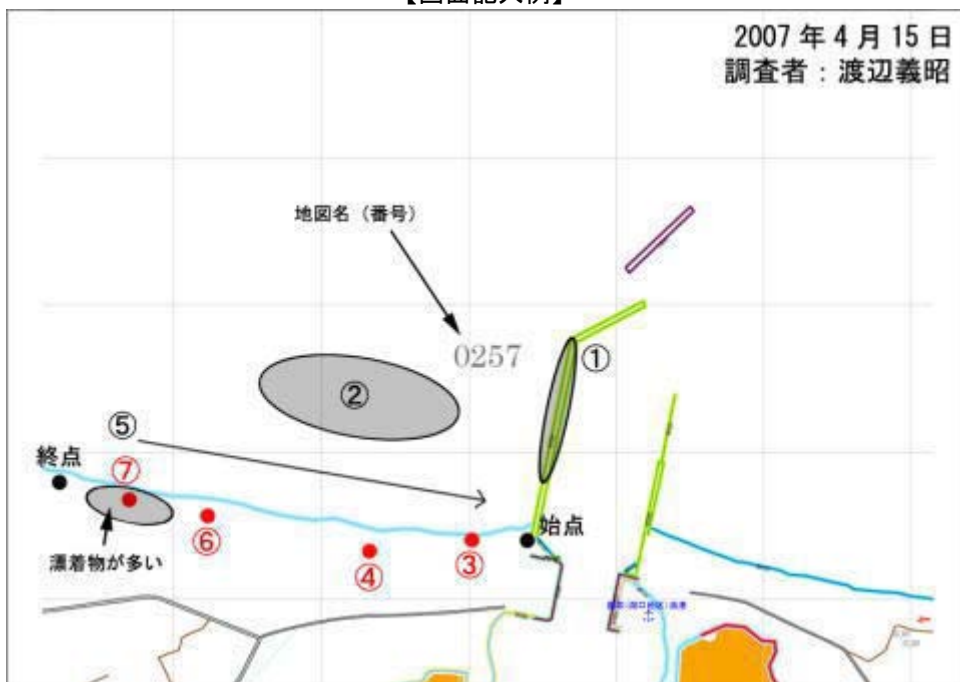
電子メールにて結果報告頂く場合、こちらのファイルに必要事項をご記入(現場野帳から転記)の上、送信して下さい。

---

<図面や野帳の記入例・撮影例>

こちらの記入例も参考にして下さい。  
それぞれ、画像をクリックすると拡大版が開きます。

【図面記入例】



【野帳記入例】

2008.4.9 記録用紙 (英) 04版

海鳥海岸センサス記録用紙 全 1 枚のうち 1 枚目

観察者 **渡辺義昭** 観察日 **2007年 4月 15日** 観察時刻 **09時 10分 - 終了 10時 30分** 天候 **晴れ・無風**

海岸名(町町村) **能取湖海岸線 (網走)** 観察者の連絡先 **無** 観察者の経緯が正しく、観察された経緯が何らかある。ほとんど初心者調査方法。陸上からの観察。陸上からの航空撮影を使用。陸上からスコップを使用。その他:

必須 汚染物が発見された場合は必須 記録の場合必須

観察時刻	地点名(番号) (番号)	地名または緯度-経度	種名	個体数(移動)	汚染物を回収する場合は回収番号	個体の状態 (ANCAC, FDO, PD)	油の付着状況 (M, L, N)	記録の備考欄	その他、気づいた点 (鳥に絡まっている(釣り糸・針・網など) 海岸の油污等の有無、海岸のタイプなど)
09:10	0257/ 始点								
09:10	0257/①		オオセグロカモメ	10+					生体、異常行動なし
			シロカモメ	2					同上
09:10	0257/②		シノリガモ	20+					同上
			ホオジロガモ	10+					同上
09:20	0257/③		ウミスズメ類	1		OD	N		油の付着なし、種不明 写真 No. IMG4700 ~ 4704
09:35	0257/④		ハシブトウミネガラス	1	①	FD	L		油の付着あり、死体回収 写真 No. IMG4705 ~ 4708
09:55	0257/⑤		オフロウレ	成鳥 1					上空通過
10:00	0257/⑥		カモメ類	1	②	OD	L		油の付着あり、死体回収 写真 No. IMG4709 ~ 4713
10:15	0257/⑦		漁付着ロープ	1					直径約 5cm 長さ約 5m 油付着部を切り取り回収 写真 No. IMG4714 ~ 4719
10:30	0257/ 終点								

個体の状態: ANC Alive Not Captured(生きていて捕獲せず)、AD Alive Captured(生きていて捕獲)、FD-Fresh Dead(新鮮な死体)、OD-Old Dead(古い死体)、PD-Part of Dead(食害を受けた死体の一部)  
油の付着状況: MH-Heavy(全身の2/3以上油が付着)、M-Medium(1/3~2/3程度付着)、L-Light(1/3以下の付着)、N-No(油付着が無く、油污以外の死因が考えられる)  
主な海岸タイプ: 砂浜(1A)、波食台(2A)、海中砂浜(3A)、岩砂浜(4)、砂利-砂礫混合(5)、松石(6A)、漁業遺棄(8B)

海鳥の死体等の漂着物を発見した場合は、以下のように様々な角度で撮影して下さい。

【撮影例: 1】



【撮影例: 3】

【撮影例: 2】



【撮影例: 4】



各自、事故等のないよう、くれぐれも注意して調査を実施してください。  
取りまとめ側では調査に関する様々な調整・連絡等は原則として行いません。  
調査に関わる一切の責任は調査者各自にあります。  
万一、事故や不都合等があっても責任は負えませんので、ご了承下さい。

なお、これまでの一斉調査のデータは以下からダウンロードできます。  
各リンク先の左側に表示される  
[「Click here to start download..」](#)  
をクリックするとダウンロードが開始されます。

【2006年4月9日オホーツク海岸一斉調査】  
<http://www.mediafire.com/?qmwzyfmue25>

【北海道一斉海岸調査 2007】  
<http://www.mediafire.com/?mtm3tddmzmi>

【北海道一斉海岸調査 2008】  
<http://www.mediafire.com/?jongjmxogmz>

以上、日本野鳥の会オホーツク支部の公式 Web サイト(<http://www.wbsj-okhotsk.org/>)上に設置した、「一斉海岸調査 2009」専用ページから転載

# 北海道一斉海岸調査 2009

## 調査要領

### 1. 調査に必要なもの

#### 【調査海岸の図面（地図）】

以下からダウンロードしてご使用下さい。

<http://www.gsh.pref.hokkaido.jp/map/shore1/index.html>

北海道海岸環境情報図ver1.06（PDF版）〔ZIP形式圧縮ファイル：32.9MB〕

取りまとめの際の労力軽減のため、図面や野帳はできる限り統一したいと考えております。ご協力をお願い致します。ただし、ナローバンド環境等でダウンロードが困難な方は、国土地理院発行の1/25,000や1/50,000の地形図、または環境省（環境庁）発行の自然環境保全基礎調査用メッシュマップ（1/50,000）等を使用されても構いません。

地図への記入例は以下からご覧頂けます。念のため、プリントして調査に持参されると良いでしょう。

記入例：<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus2009.htm>

#### 【調査野帳】

調査野帳も統一致しますので、ご協力下さい。

以下からダウンロードしてご使用下さい。

<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus2009.htm>

記入例はダウンロードして頂くPDFファイルに付記されているほか、上のページからもご覧頂けます。

一見して難しそうですが、すぐに慣れますので大丈夫です。

「実習」というような心構えで、焦らずじっくりやってみてください。

記入方法が分からない場合は、余白や裏面などを利用して、可能な限り詳細な情報を残し、「自分以外の第三者が読んでも分かるように」を心がけて下さるよう、お願い致します。

#### 【メモ帳・筆記用具】

慣れている方は、調査時は携帯に優れた小型の野帳に記入し、終了後に正式な野帳に必要な項目を書き写して提出する、というやり方でも構いません。

無理なく続けられるよう、ご自身のやりやすいやり方で行ってください。

## 【双眼鏡、望遠鏡、カウンター等の観察用具】

今回から漂着物調査と同時に簡単なカウント調査も行って頂きます。望遠鏡は必要に応じて使用して下さい。カウンターは必携ではありませんが、あると便利です。

## 【油性マジックペン】

もし、海鳥の死体等の回収物等があった場合に、袋の外側に「回収日」、「回収場所（例：能取 - ）」、「回収者氏名」を明記するために使います。袋に直接書かずに、“荷札”を利用する方法もあります。必要な情報が分かればどちらでも構いません。ただし必ず油性のペンを使用してください。

## 【アルミホイル】

原則として油サンプルの収集は行いませんが、もし独自に油をサンプリングされる場合、油が直接ビニール袋に触れてしまうと成分が変化してしまい、分析に支障を来す恐れがあるため、まずアルミホイルにしっかり包んでから袋に収納するようにしてください。一般的な家庭用のアルミホイルで構いません。

## 【ビニール等の袋】

レジ袋や家庭用ゴミ袋でも構いませんが、ジッパー付きの冷凍保存用バッグ（いわゆる“ジップロック”）も各サイズ携帯されると便利です。

## 【カメラ】

調査地の写真（環境写真、調査風景写真）は不要ですが、鳥獣の死体や油関係の漂着物等、重要な発見があった場合には必ず様々な角度から写真を撮影してください。

電子メールでの簡便なやりとりを念頭に置いているため、できればデジタルカメラを使用して下さい。PCモードUXGA以上で撮影できるものであれば携帯電話内蔵のカメラでも構いません。フィルムカメラの場合は恐れ入りますがスキャンして下さい。ネガやプリントはお預かりできませんのでご了承下さい。

撮影例はこちらからご覧頂けます。

<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus2009.htm>

## 【ゴム手袋・マスク】

死体に触れる際は必ず手袋・マスクを着用してください。手袋は薄手の使い捨てタイプのものが便利です。

## 2. 調査マニュアル

### 【調査期間】

調査期間は2009年4月1日～15日までの15日間とします。

一斉調査日は特に設けませんので、この期間内に一回以上、調査を実施して下さい。期間内に複数回実施できる場合は、可能であれば場所を変更し、より広域をカバーして下さいよう、お願い致します。ただし、広域の調査が困難な場合は同じ場所を複数回調査されても構いません。調査時間の制限はありません。ご自分のペースで、焦らず、慌てず、じっくりと行ってください。

### 【調査人員】

調査員は何名でも構いません。

「調査」という名前に縛られず、地域のお仲間やご家族で気軽に行って頂ければと思います。

### 【調査範囲・距離】

調査範囲や距離は特に決めません。何mでも何kmでも構いません。

ご自分でアクセスしやすい場所を決め、無理のない方法で実施してください。

ただし、調査した区間が確実に分かるよう、図面上にはっきりと示してください。

特に漂着物等の発見がなくとも調査区間を明記の上、ご報告下さい。

海岸を歩く方法での調査を基本と考えていますが、地形的に歩くことが困難な場所、あるいは河口や港湾部などについては、定点を設けて周辺の漂着物の様子や沿岸性鳥類のカウントを実施してください。

### 【調査の方法】

海岸線をジグザグに歩いて、次のような漂着物を探し、見つけたら必要事項を野帳に記入し、撮影を行います。

- ・ 海鳥の死体（油の付着に関わらず）
- ・ オイルボール（塊～ムース状など様々な種類があります）
- ・ 油が付着したロープや漁網
- ・ その他特筆すべき漂着物

また同時に、周辺の海上・海岸にいる鳥の種類とおおよその数を調べます。

調査中に出現したものを随時記録していく方法だと、煩雑になってしまいがちです。このため、始点と終点あるいはそのどちらかなど、一度または二度カウントを行うのがベターです。

ただし、この場合も途中で大きな群れが出現するなど特筆すべき確認があった場合は、その都度、追加で記録するようにして下さい。

## 【鳥の死体やオイルボールなどの漂着物を発見した場合】

まず、必要な情報を野帳に記入し、様々な角度から撮影を行います。

鳥の死体の場合、油の付着に関わらず、必ず撮影を行って下さい。

油の付着があるかどうか、様々な角度から詳細に観察し（死体を扱う場合は必ずゴム手やマスクなどを装着して下さい）、付着が認められた場合はそれに関わる部分について野帳に記入して下さい（食害の有無や個体の状態など：記入例参照）。

## 【回収（サンプリング）についての考え方】

死体の回収（油のサンプリング含む）を行うかどうかは現場判断とします。

以下を参考に、各自、適宜判断して下さい。

腐敗や損壊の進んだものは無理に回収せず、自然に分解を委ねたいと思います。死体もある種の生物にとっては重要な食料ですので、そのまま放置するのが最良である場合も多々あります。

油が付着しているものについては捕食者による二次被害防止のため穴を掘って埋めるなどして下さい。ただし、汚染個体が大量に漂着していたり、油の漂着も見られる場合はまず地元行政や警察・海上保安庁等への通報を優先し、現場保全に努めてください（P.5【緊急時の判断について】参照）。

見つかった油を逐一採取して分析するのが理想的ではありますが、残念ながら、こういった民間調査によってサンプリングされた油を分析する道筋が確立しておらず、私ども個人では保管するにも限度があるため、当面の間、各調査員の皆様からの油サンプルの収集は原則として行いません。甚だ不本意ではありますが、熟慮の上の結論としてご理解下さい。

サンプルの収集は見合わせますが、今後分析への道筋がついた場合のために個人として少しでもサンプルを保管しておきたいとお考えの方もおられるかと思えます（私どもとりまとめ側も個人としてのサンプリングは続けていく所存です）。「分析用のサンプル」と聞くと、死体を丸ごと保存しなければならないような錯覚を受けますが、実際には「（鳥の場合）油が付着した羽が数枚程度」あれば分析が可能です。念のため、「数枚程度」よりも若干多い程度の量をアルミホイルに包んだ上で冷凍保存（可能であれば業務用冷凍庫）することをお勧めします。採取日や採取地といった基本的な情報は袋に記入すると同時に、紙に鉛筆で書いて袋の中に入れておくと万全です。ご参考になさって下さい。

まれな種類や新鮮な死体は貴重な資料になります。博物館や研究者の方々へご提供し、様々な調査研究の資料として活用して頂きたいと思えます。ご自身で対応が可能な方は適宜お願い致します。私どもでも必要に応じて仲介致しますので、ご連絡下さい。回収はできるが保管が難しいという場合は、嚴重に梱包の上、クール便にて川崎か渡辺まで取り急ぎお送り下さい（要事前連絡）。そ

の場合の費用については恐縮ですが各自ご負担下さい。

チシマウガラス、コウノトリ、シジュウカラガン、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、クマタカ、イヌワシ、ハヤブサ、タンチョウ、カラフトアオアシシギ、ウミガラス、エトピリカ、ワシミミズク、シマフクロウは「絶滅のおそれがある野生動植物の種の保存に関する法律」により希少野生動物に指定されている種です。調査中にこれらの死体を発見した場合は、死体の状態に関わらず、可能な限り回収して下さい。その場での回収が難しい場合は、波による再流出を防ぐため高い位置に移動した上で、後日回収しやすいよう、分かりやすい目印を付け、環境省北海道地方環境事務所（TEL：011-251-8700）、釧路自然環境事務所（TEL：0154-32-7500）、あるいは最寄りの自然保護官事務所に連絡してください。なお、これらの生体を保護（弱っている個体を確認したが保護できない場合も含めて）するなど、緊急時であっても、土日祝祭日は行政機関と連絡が取れないことがあります。この場合は最寄りの警察などに相談して下さい。

#### 【鳥獣の生体を保護した場合】

以下の各支庁地域振興部環境生活課自然環境係、または各市町村窓口に連絡して指示を仰いで下さい。ただし、土日等休日は対応できない場合が多いと思いますので、あらかじめ緊急時の持ち込み先などを聞いておくとう良いでしょう。

支庁名	電話番号	内線電話番号
石狩	0 1 1 - 2 0 4 - 5 8 2 5	3 4 - 3 8 4
渡島	0 1 3 8 - 4 7 - 9 4 3 9	2 9 8 9
檜山	0 1 3 9 - 5 2 - 6 4 9 4	2 9 7 7
後志	0 1 3 6 - 2 3 - 1 3 5 4	2 9 7 7
空知	0 1 2 6 - 2 0 - 0 0 4 5	2 9 8 9
上川	0 1 6 6 - 4 6 - 5 9 2 4	2 9 8 9
留萌	0 1 6 4 - 4 2 - 8 4 3 6	2 9 7 7
宗谷	0 1 6 2 - 3 3 - 2 9 2 2	2 9 7 7
網走	0 1 5 2 - 4 1 - 0 6 3 2	2 9 8 9
胆振	0 1 4 3 - 2 4 - 9 5 7 8	2 9 8 9
日高	0 1 4 6 - 2 2 - 9 2 5 4	2 9 7 7
十勝	0 1 5 5 - 2 6 - 9 0 3 1	2 9 8 9
釧路	0 1 5 4 - 4 3 - 9 1 5 4	2 9 8 9
根室	0 1 5 3 - 2 3 - 6 8 2 3	2 9 7 7

#### 【緊急時の判断について】

緊急通報を含む行政側への連絡等は調査員各自の判断・責任で行って下さい。参考までに、いくつか考えられるケースを以下に挙げておきます。

#### 海上に油（油膜）が浮かんでいた場合

海上保安庁（１１８番）に連絡し、状況を説明して指示を仰いでください。  
**海岸に油や大量の鳥獣の死体、危険物（含ドラム缶）等が漂着していた場合**

大量の油が漏れだしているなど、緊急性が認められる場合は警察（１１０番）に連絡してください。海上保安庁でも対応してくれると思います。

風化しているような古いドラム缶等については、記録は逐一取っておきますが、特に行政へ連絡する必要はないと考えています。  
各自状況を勘案の上、ご判断下さい。

### **クジラやイルカの座礁を発見した場合**

以下の「北海道いるか・くじら１１０番」に連絡して下さい。

「北海道いるか・くじら１１０番」

専用電話：０９０－１３８０－２３３６

メールで報告する場合（写メール添付可）：[shn@minke.fish.hokudai.ac.jp](mailto:shn@minke.fish.hokudai.ac.jp)

参考ホームページ：<http://snh.seesaa.net/>

### **【調査結果について】**

今回の調査について、事前の参加申し込み等は不要です。  
実施した場合のみ、下記の川崎、渡辺のどちらかまでデータをお送り下さい。  
**データ提出の締切は2009年4月末日とさせていただきます。**

ご協力をお願い致します。

データは次のいずれかの方法でお送り下さい。

諸費用につきましては恐れ入りますが各自ご負担下さい。

「何もいなかった」、「何も漂着していなかった」という情報も非常に重要です。調査を実施された場合は必ずご報告下さるよう、お願い致します。

郵送（含メール便）

調査図面、野帳をお送り下さい。三つ折りでも構いません。

漂着物の写真がある場合はCDにコピーの上、同封して下さい。

電子メール

図面と野帳を150dpi程度でスキャンして頂き、漂着物の写真があればそれとともに電子メールに添付してお送り下さい。

図面と野帳をデジカメで撮影して頂き、細部までしっかり写っていることをご確認の上、画像を送って下さっても結構です。

非常にデータ量が多い場合は「宅ファイル便」などの大容量ファイル送信サービスが便利です。いくつかのファイルを一つに圧縮することで、一度に数多くのファイルを送ることも可能です。

参考：「宅ファイル便」 <http://www.filesend.to/>

FAX

特に漂着物の確認がなく、画像がない場合は、図面と野帳をFAXでお送り頂いても結構です（川崎まで）。

**[ 送り先・連絡先 ]**

〒099-3452 斜里郡小清水町浜小清水 72-25 川崎康弘  
自宅電話（FAX 兼）：0152-63-4110 携帯電話：090-3777-6986  
電子メール： marlboro@phoenix-c.or.jp

〒093-0033 網走市網走市駒場北 4-1-2 motoN 駒場 223 渡辺義昭  
携帯電話：090- 6870-9298  
電子メール： wakitori@m3.gyao.ne.jp

**【調査データの取扱について】**

お送り頂いたデータは川崎・渡辺がとりまとめを行い、できる限り早期に集計を行い、集計結果を「速報」として日本野鳥の会オホーツク支部の油問題専用ブログ(<http://blog.livedoor.jp/abura060303/>)にて公開致します。その後、2010年3月をめどに報告書をまとめ、Web 経由で配布させて頂きます。印刷物での配布は考えておりませんので、ご了承下さい。

報告書には調査に参加頂いた皆様のご氏名を記させて頂きます（連絡先等は掲載致しません）。ご都合が悪い方はその旨、あらかじめご連絡下さい。

調査データは要請に応じて様々な調査研究に活用して頂くよう適宜ご提供して参りたいと考えております。調査データの取扱につきましてはとりまとめ役にご一任下さるよう、あらかじめご了承下さい。

**【その他】**

調査等、一連の活動については各自の責任で行い、事故等のないようくれぐれもご注意下さい。万が一、事故等があっても一切責任は負えませんのでご了承下さい。

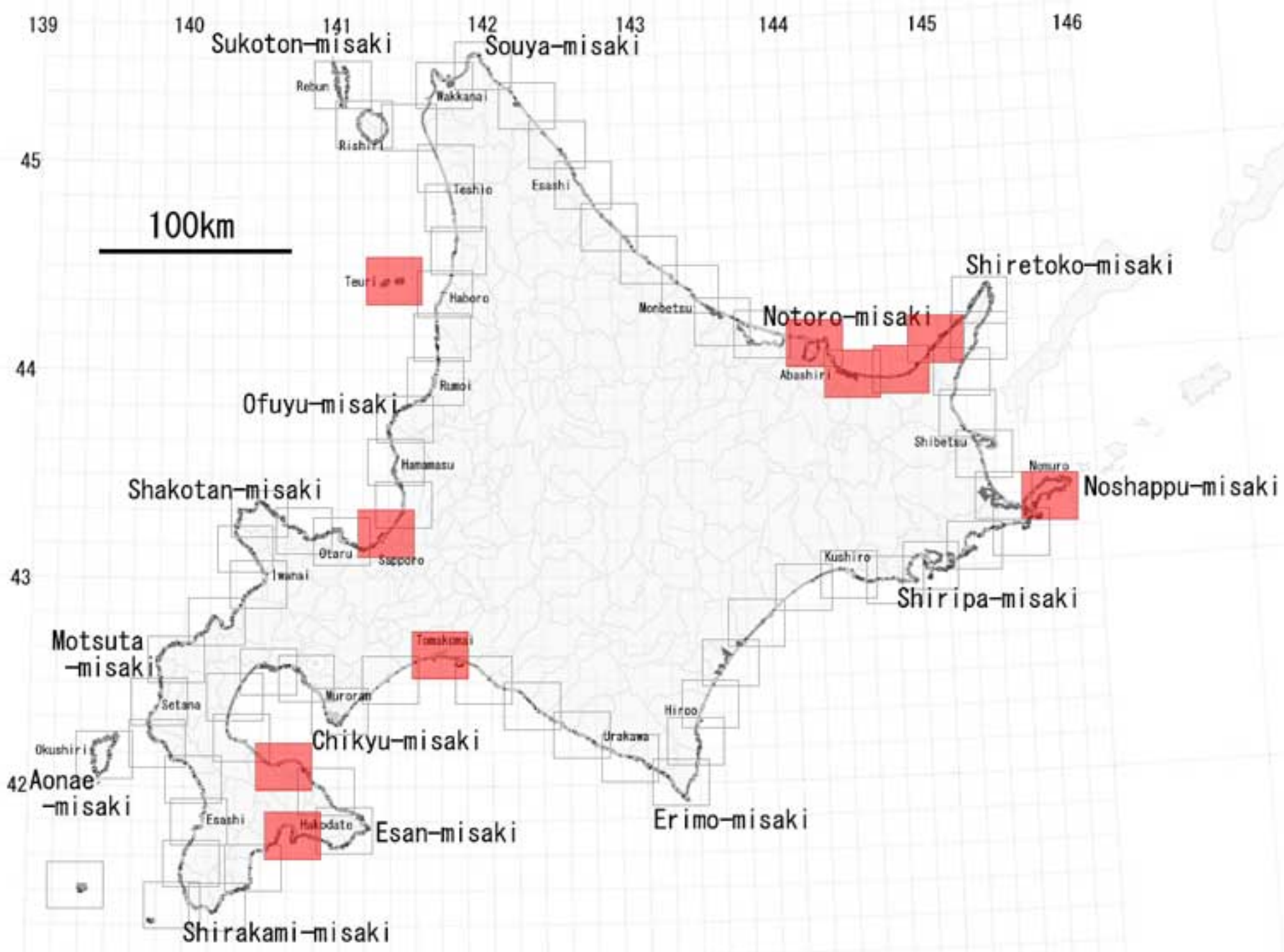
# 調 査 結 果

調査実施地区

野帳

図面

写真









## 海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	舟生憲幸	観察日	2009.04.12		観察時刻	5:30 ~ 7:10		天候	晴れ		
海岸名(市町村)		鱒浦海岸(網走市)			観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富		調査方法	陸上からスコープを使用		
個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない											
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点	
5:30~5:40	285A	1		シノリガモ	34					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				ウミアイサ	7					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				オオセグロカモメ	9					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				トビ	2					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				スズメ	2					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				ハシボソガラス	2					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				ゴマフアザラシ	4					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
5:40~6:08	285A	始点~2		漁網	14					海岸の分類4-5. 1m×1mのもの14個確認。油の付着なし。	
6:08	285A	3		オオハクチョウ	122					海岸の分類4-5. 群れで北上(沖500m以上)	
6:09	285A	3		オオハクチョウ	11					海岸の分類4-5. 4羽、4羽、3羽の群れで北上	
6:11	285A	3		オオハクチョウ	12					海岸の分類4-5. 群れで北上	
6:08~6:30	285A	2,4		シロカモメ	34+					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				オオセグロカモメ	60+					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				ワシカモメ	4					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				シノリガモ	9					海岸の分類4-5. 生体、異常なし	
				ハクセキレイ	2					生体、異常なし	
				トビ	3					生体、異常なし	
				ハシボソガラス	31					生体、異常なし	
				カワラヒワ	1					生体、異常なし	
				ホオジロガモ	14					生体、異常なし. 求愛ダンス	
				ゴマフアザラシ	2					生体、異常なし	
6:37	286A	5		オオハクチョウ	64					生体、異常なし. 群れで北上	
6:55~7:10	286A	6		オオセグロカモメ	40+					生体、異常なし	
				シロカモメ	9					生体、異常なし	
				ユリカモメ	3(夏羽)					生体、異常なし	
				ウミウ	5					生体、異常なし	
				シノリガモ	38					生体、異常なし	
				ホオジロガモ	27					生体、異常なし	
				マガモ	1♂					生体、異常なし	
				ウミアイサ	1♂					生体、異常なし	
				ヒバリ	1					生体、異常なし	
				ハクセキレイ	4					生体、異常なし	
				ゴマフアザラシ	2					生体、異常なし	

7:10	286A	5		オオハクチョウ	11					生体、異常なし。群れで北上
6:30~7:10	285A-286A	2~終点		タイヤ、漁網						タイヤ3個、漁網(1m×1m以上)6個 確認。油の付着なし。

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭、渡辺恵		観察日	2009.04.12		観察時刻	9:45 ~ 12:00		天候	晴れ	
海岸名(市町村)			藻琴川河口～鱒浦(網走市)			観察者の熟練度		生物観察の経験が豊富		調査方法	
個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない											
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点	
9:45	287B	1		シロカモメ	8						
9:45	287B	1		オオセグロカモメ	5						
9:45	287B	1		カモメ	15±						
9:45	287B	1		ホオジロガモ	3						
9:45	287B	2		ウミアイサ	150±						
10:13	287B	3		シロカモメ	1		OD	N	左翼、胸骨		
10:30	286B	4		シロカモメ	50+						
10:30	286B	4		オオセグロカモメ	80+						
10:30	286B	4		ワシカモメ	2						
10:30	286B	4		カモメ	1						
10:32	286B	5		ウミガラス類	1		PD	N	胸骨		
10:43	286B	6		カモメ類	1		OD	N	羽塊		
10:50	286B	7		ウミガラス類	2		PD	N	頭部、胸骨		
10:57	286B	8		ウミガラス類	1		PD	N	胸骨		
11:02	286B	9		ウミガラス類	1		PD	N	羽塊		
11:03	286B	10		ウミガラス類	1		PD	N	羽塊		
11:06	286B	11		ヒメウ	1		OD	N	羽塊		
11:20	285B	12		シロカモメ	40+						
11:20	285B	12		オオセグロカモメ	50+						
11:20	285B	12		セグロカモメ	1						
11:20	285B	12		ワシカモメ	1						
11:20	285B	12		ハシブトガラス	1						
11:20	285B	12		ハシボソガラス	24						
11:20	285B	13		シノリガモ	61						
11:20	285B	13		ホオジロガモ	25						
11:20	285B	13		ウミアイサ	14						
11:20	285B	13		シロカモメ	1						
11:20	285B	13		ワシカモメ	1						
11:20	285B	13		オオセグロカモメ	15						
11:20	285B	13		ゴマフアザラシ	2						
11:25	285B	14		ウミガラス類	1		PD	N	両翼、胸骨、両脚		
11:28	285B	15		トビ	1		PD	N	全身		
11:33	285B	16		トビ	1		PD	N	左翼		
11:37	285B	17		ウミスズメ類	1		OD	N	羽塊	No.15のトビ死体の一部と思われる。	
11:49	285B	18		ヒメウ	1		PD	N	左翼、胸骨		











海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	寺田紋子		観察日	2009.04.25		観察時刻	11:17 ~ 15:20		天候	晴れ	
海岸名(市町村)		斜里川河口左岸～ウエンベツ川河口(斜里町)		観察者の熟練度		生物観察の経験が豊富		調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用		
個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない											
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点	
11:17	305	1		ヒバリ	1					生体、異常なし	
11:26	305	2		スズガモ	20+					生体、異常なし	
11:26	305	2		オオセグロカモメ	30+					生体、異常なし	
11:26	305	2		ウミウ	3					生体、異常なし	
11:26	305	3		カワラヒワ	1					生体、異常なし	
11:37	305	4		クラゲ類	5					みずみずしい～半分干からびている	
11:37	305	4		トビ	1					生体、異常なし	
11:41	305	5		ハシブトウミガラス	5					生体、異常なし	
11:54	305	6		ウミスズメ類?	1		PD	N	片脚の骨、羽のみ		
11:54	305	6		クロガモ	30+					生体、異常なし	
12:21	305	7		オオセグロカモメ	50+					生体、異常なし	
12:21	305	7		カモメ	30+					生体、異常なし	
12:21	305	7		ウミネコ	50+					生体、異常なし	
12:21	305	7		シロカモメ	3					生体、異常なし	
12:57	306	9		カワラヒワ	4					生体、異常なし	
12:57	306	9		ハクセキレイ	2					生体、異常なし	
12:57	306	9		ハシボソガラス	4					生体、異常なし	
13:17	306	10		トビ	1					生体、異常なし	
13:33	306	11		オジロワシ	1(Ad)					生体、異常なし	
13:52	306	12		オジロワシ	1(Juv)					生体、異常なし	
14:21	307	13		オジロワシ	1(Ad)					生体、異常なし	
14:36	307	14		ハクセキレイ	2					生体、異常なし	
14:55	307	15		ハクセキレイ	4					生体、異常なし	
14:55	307	15		カワラヒワ	4					生体、異常なし	
14:55	307	15		コチドリ	1					生体、異常なし	
15:20	308	16		ノビタキ	1					生体、異常なし	
		終点		ハクセキレイ	1					生体、異常なし	
13:24	306	17		シロカモメ	1		PD	N	全身		



## 海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	黒沢信道、黒沢優子	観察日	2009.04.05	観察時刻	11:15 ~ 14:20	天候	曇り
海岸名(市町村)	友知海岸(根室市)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上からスコープを使用		

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
11:15	516	1		オオセグロカモメ	127					
11:15	516	1		ワシカモメ	3					
11:15	516	1		ウミネコ	7					
11:29	516	2		カモメ類	280					
11:29	516	3		クロガモ	16					
11:29	516	3		ウミアイサ	3					
11:29	516	3		シノリガモ	15					
11:29	516	4		ウミネコ	3					
11:29	516	4		オオセグロカモメ	7					
11:29	516	5		ホオジロガモ	2					
11:29	516	5		クロガモ	48					
11:29	516	5		アカエリカイツブリ	2					
11:29	516	5		ウミネコ	2					
11:29	516	5		ビロードキンクロ	2					
11:29	516	6		オオセグロカモメ	6					
11:29	516	7		ホオジロガモ	5					
11:29	516	7		クロガモ	15					
11:29	516	7		ウミネコ	1					
12:06	516	8		オオワシ	1					
12:18	515	1		ビロードキンクロ	4					
12:18	515	1		クロガモ	2					
12:55	515	2	N:43.19.111 E:145.38.532	カモメsp.	1(不明)	写真のみ	PD	N		
12:58	515	3	N:43.19.11 E:145.38.55	ワシカモメ	1(Ad)	写真のみ	FD	N	全身	
12:58	514	4		クロガモ	32					
12:58	514	4		ビロードキンクロ	21					
12:58	514	4		ウミネコ	1					
12:58	514	4		アビ	1					
12:58	514	4		ホオジロガモ	1					
12:58	514	5		ビロードキンクロ	45					

12:58	514	5		クロガモ	20					
12:58	514	6		オジロワシ	1					
12:58	514	7		ホウロクシギ	1					
12:58	514	8		ビロードキンクロ	75					
12:58	514	8		ウミアイサ	4					
12:58	514	8		ホオジロガモ	1					
12:58	514	8		クロガモ	15					
13:15	514	9		ビロードキンクロ	80					































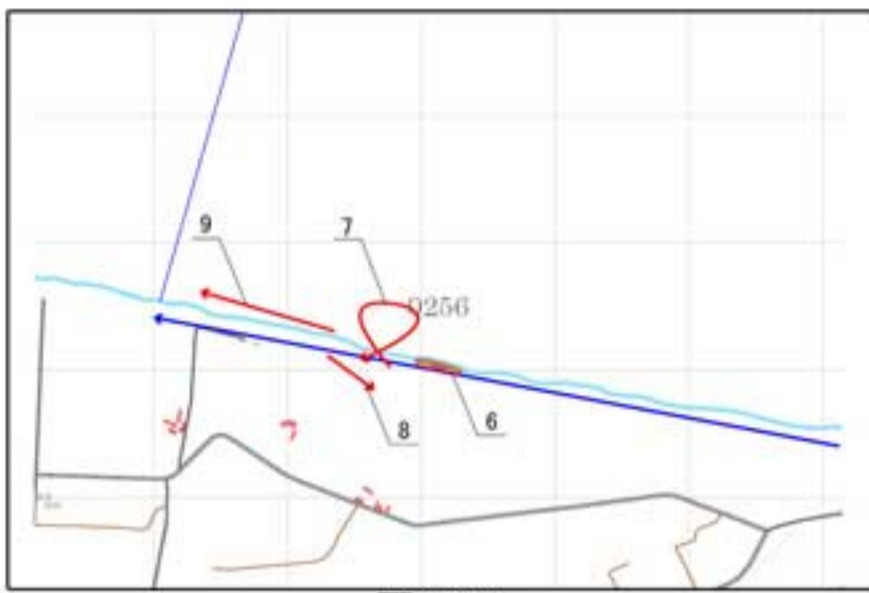


图0256

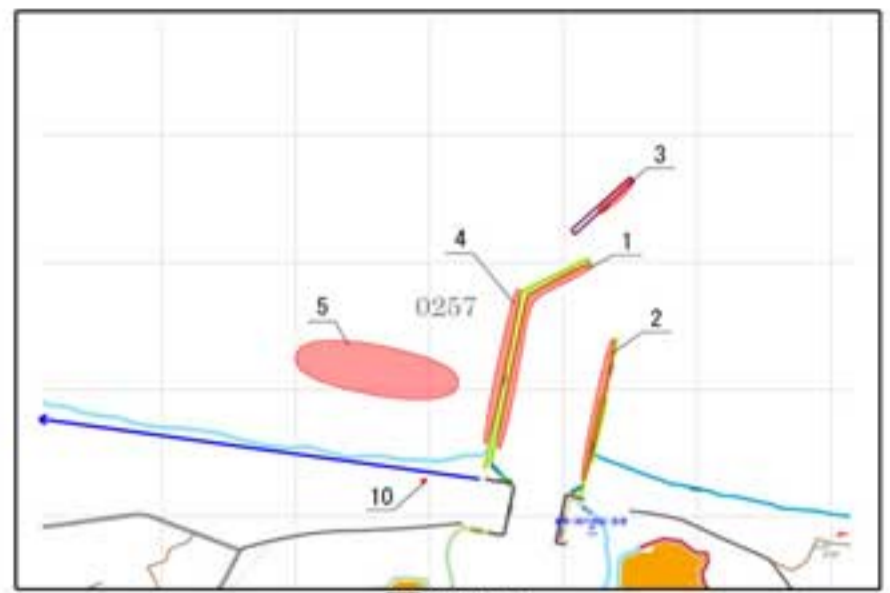


图0257

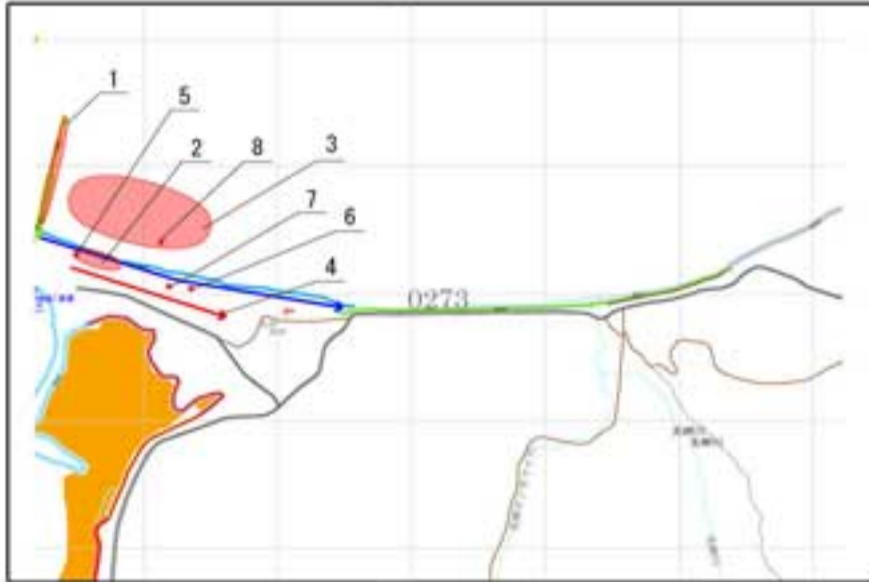


图0273

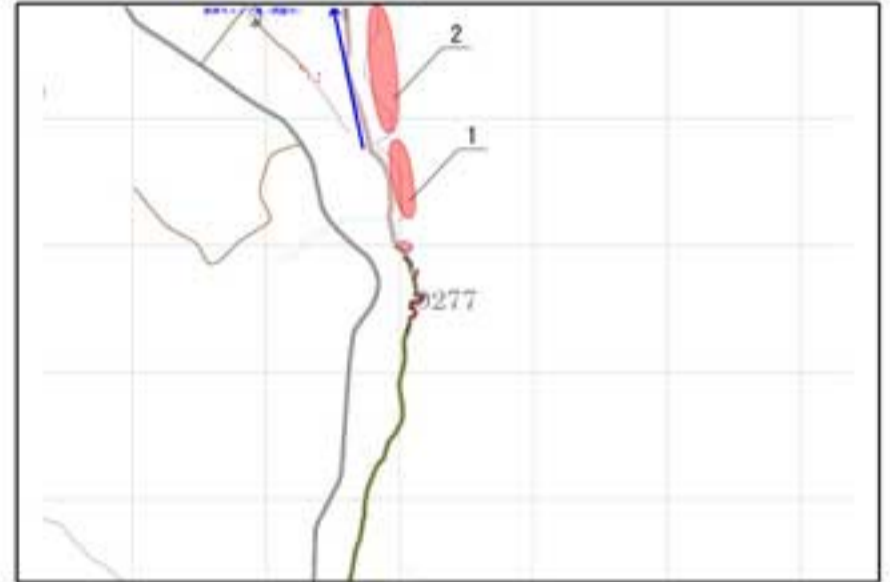


图0277

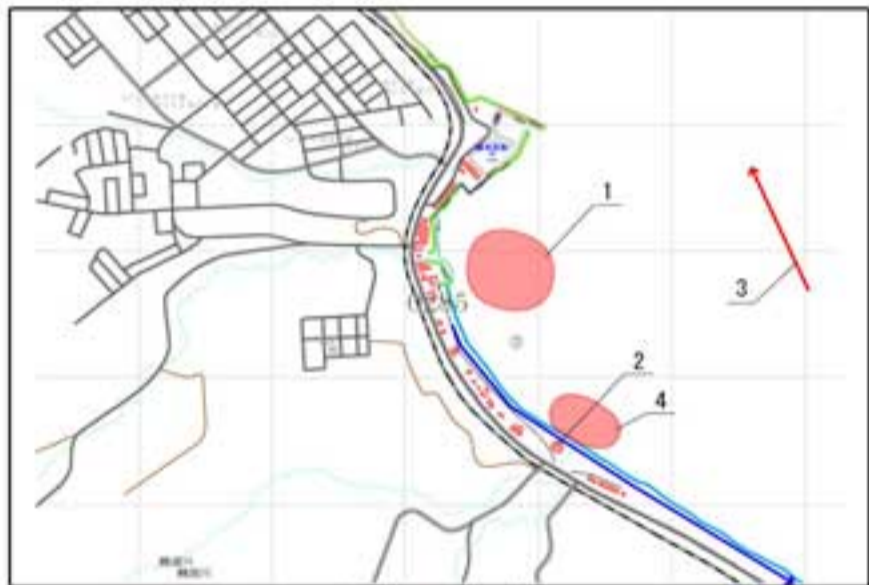


图0285 A

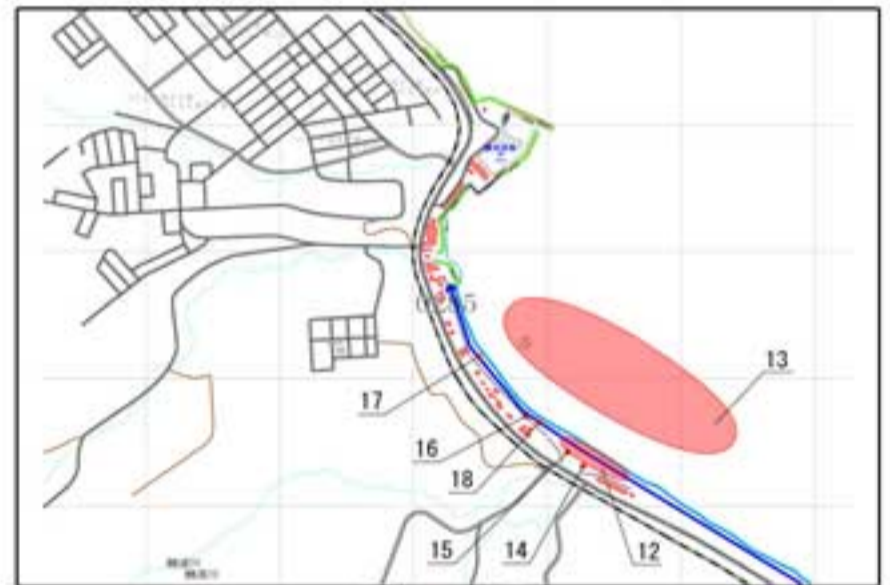


图0285 B



图0286 A

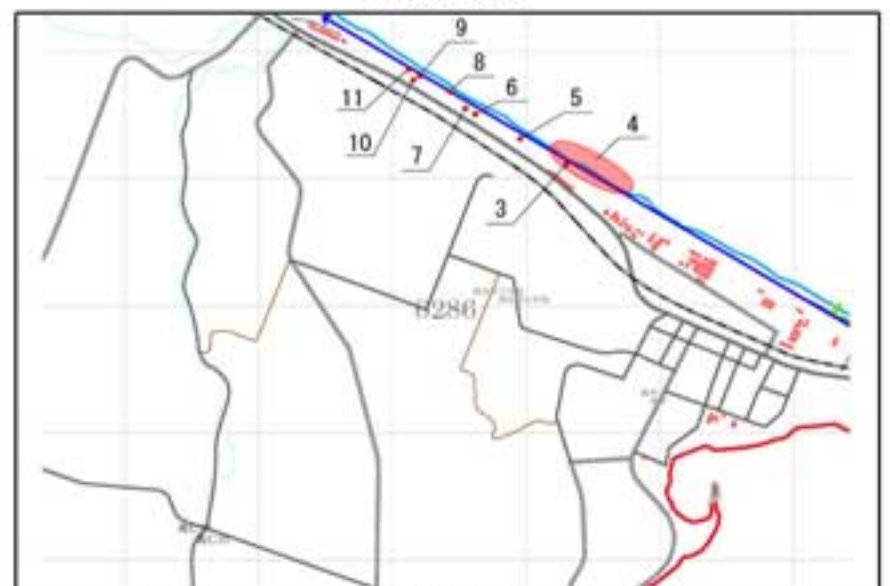


图0286 B



图0287 A



图0287 B

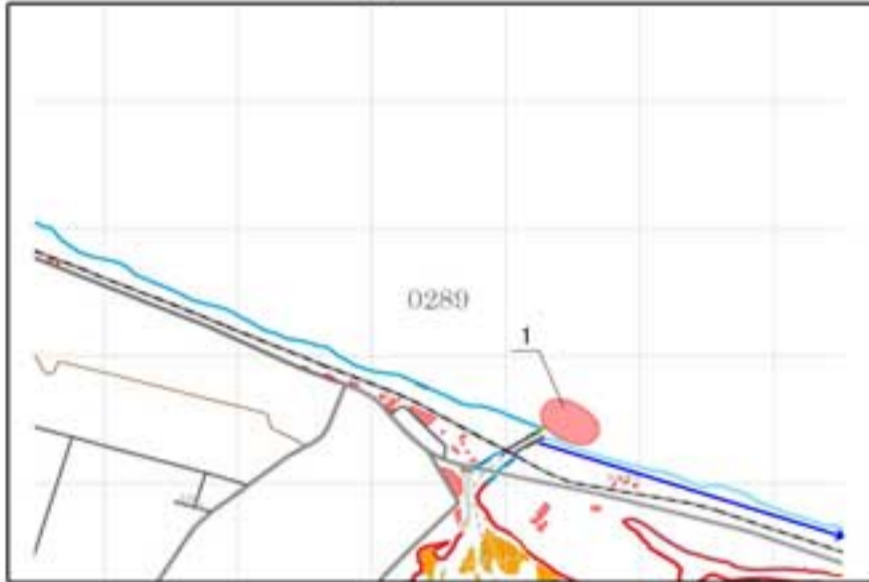


图0289 A

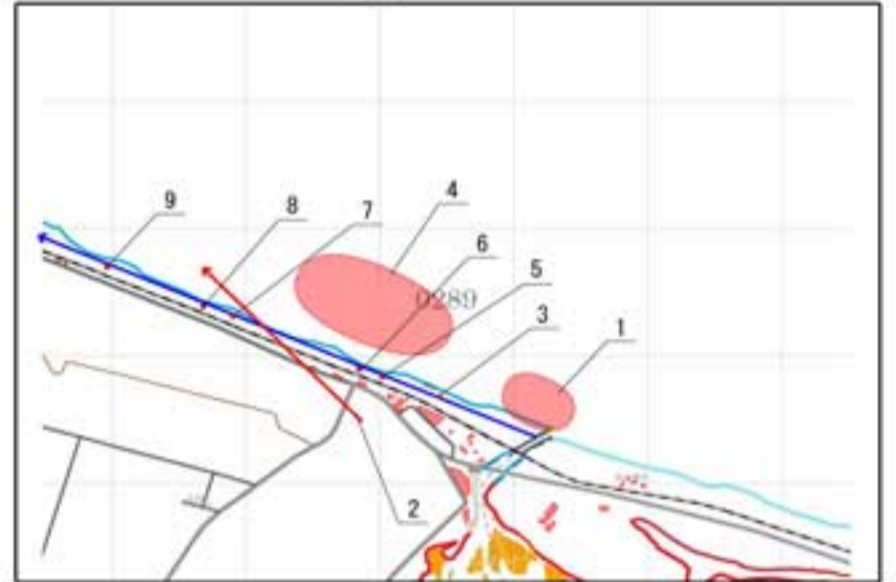


图0289 B

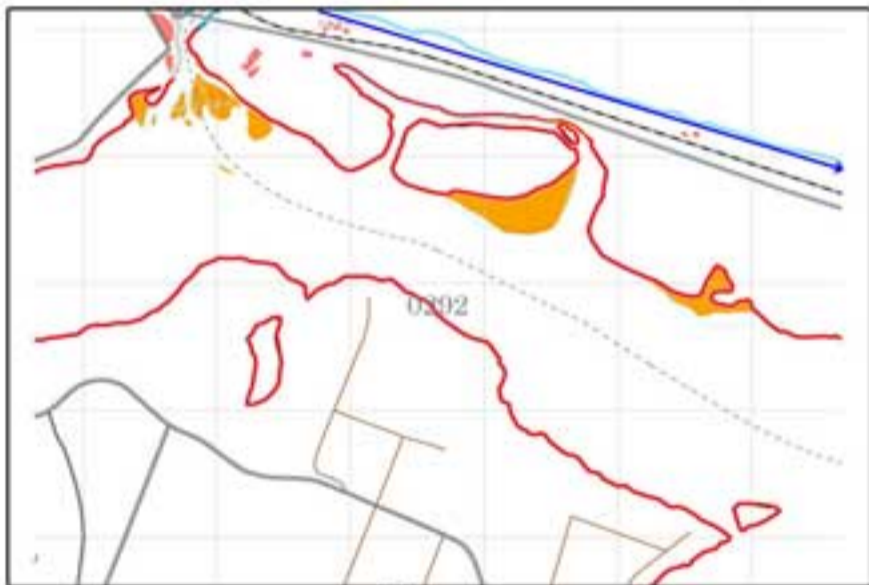


图0292

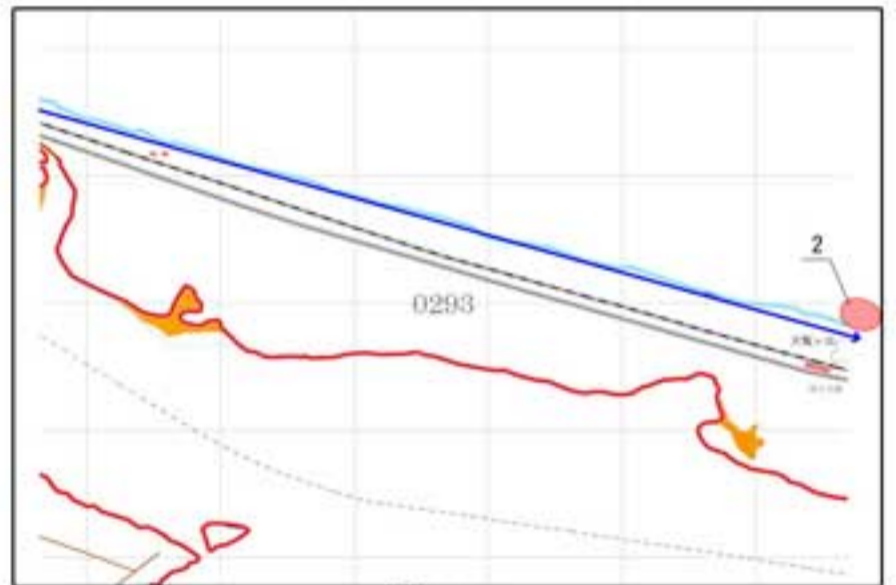


图0293

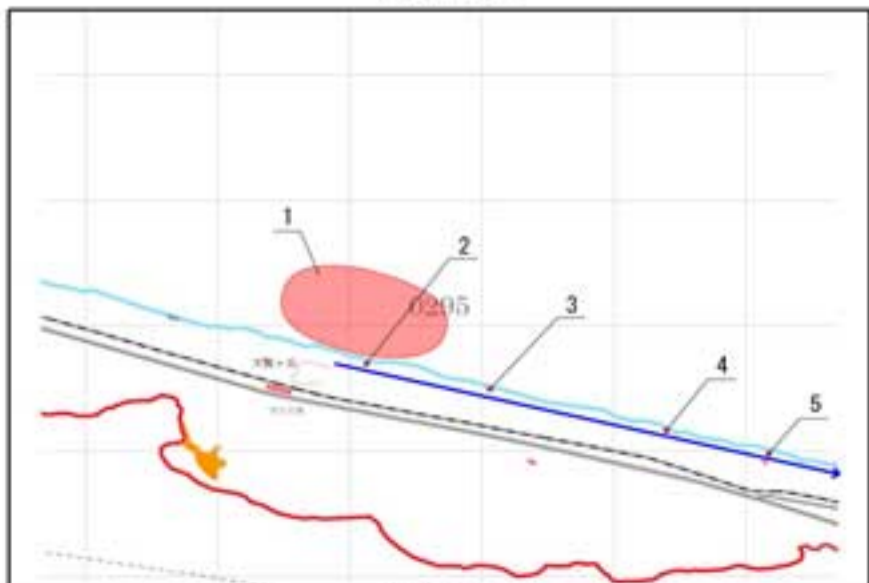


图0295

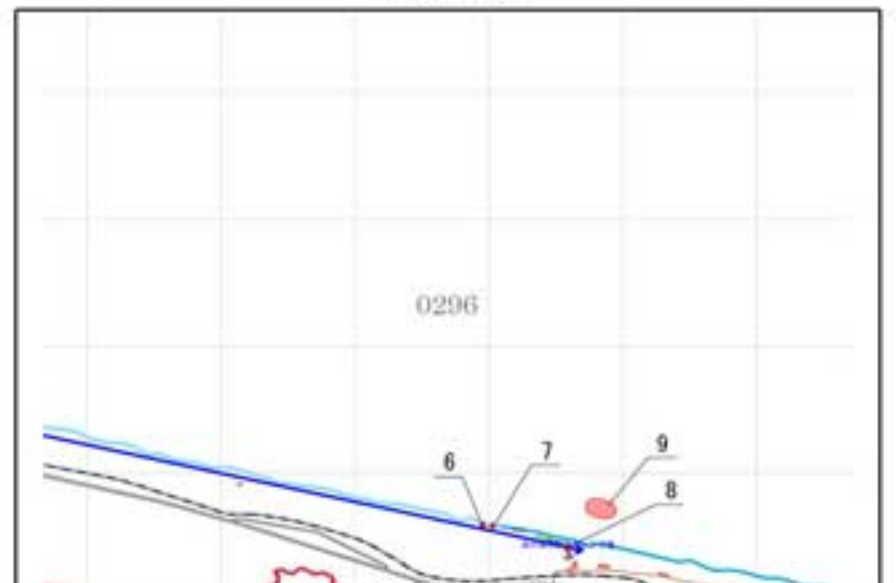


图0296

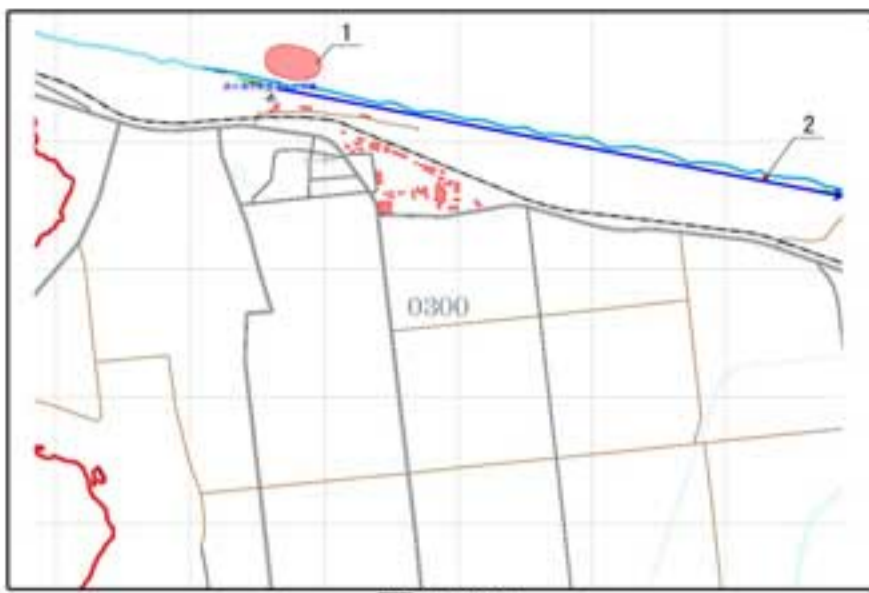


图0300

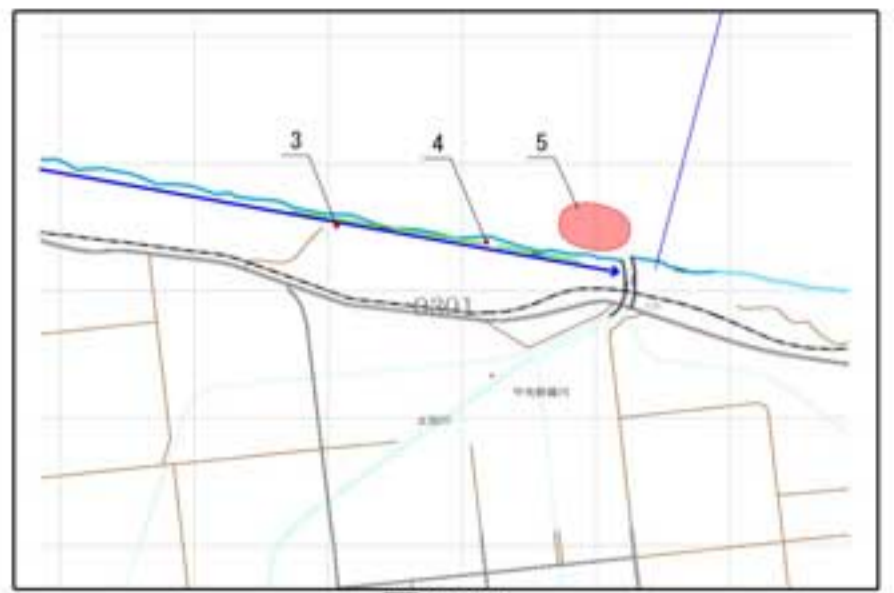


图0301

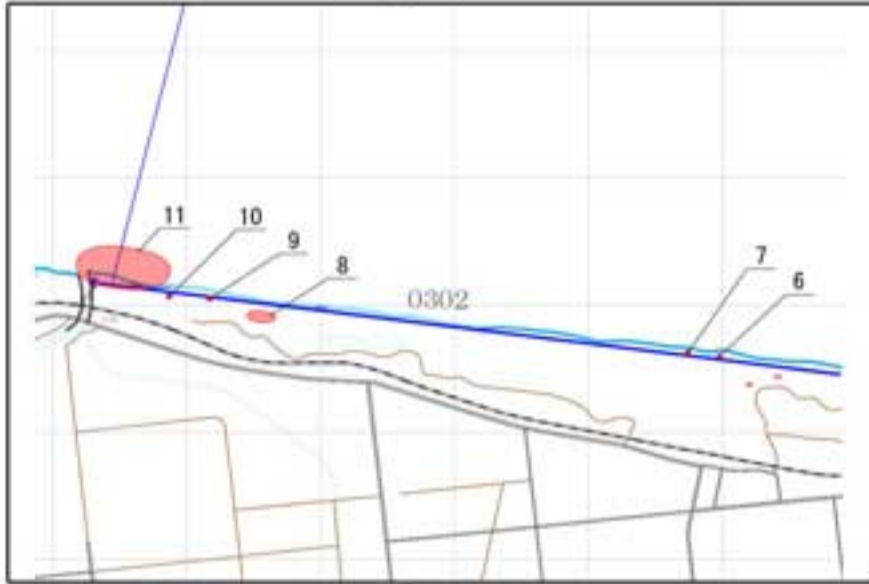


图0302

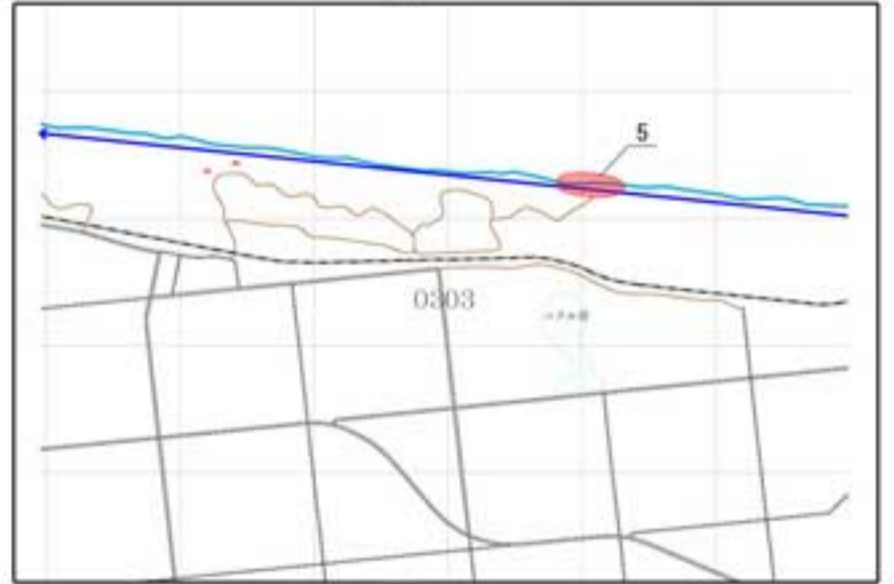


图0303

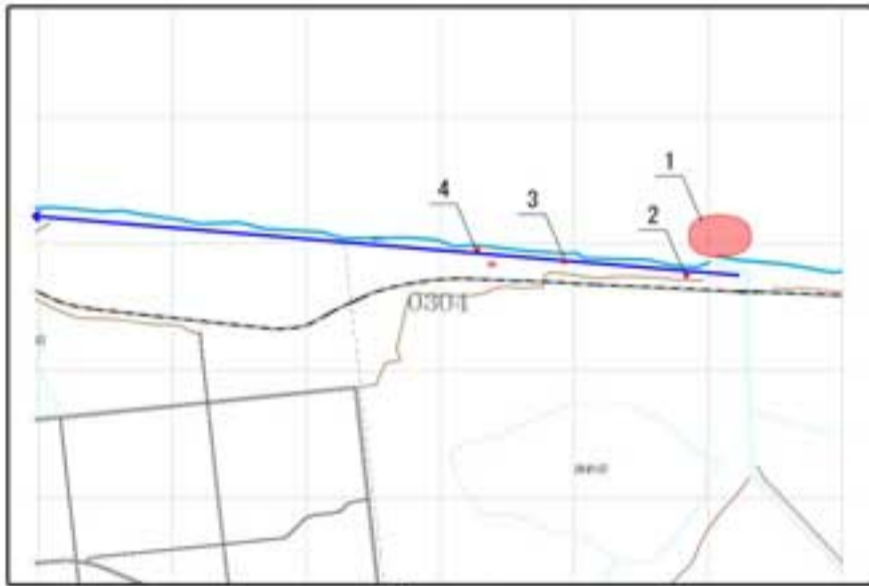


图0304

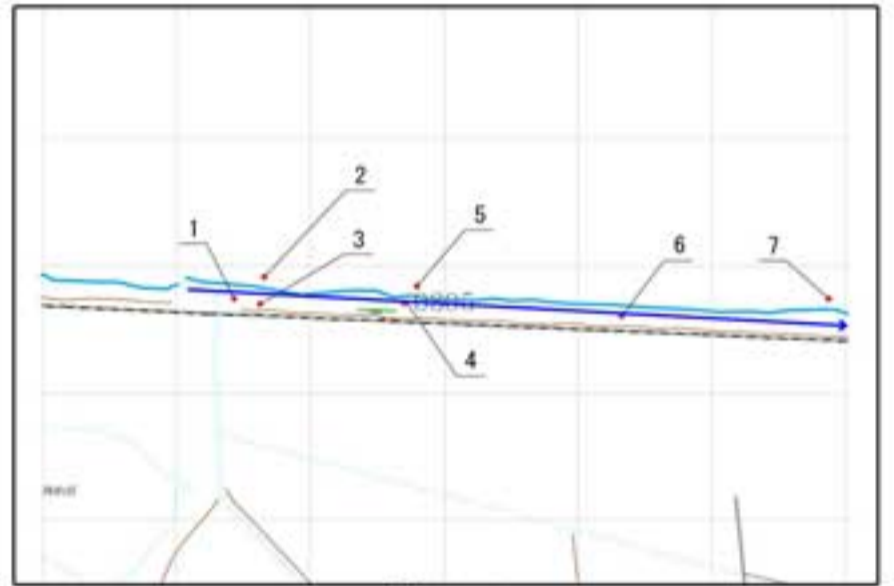


图0305

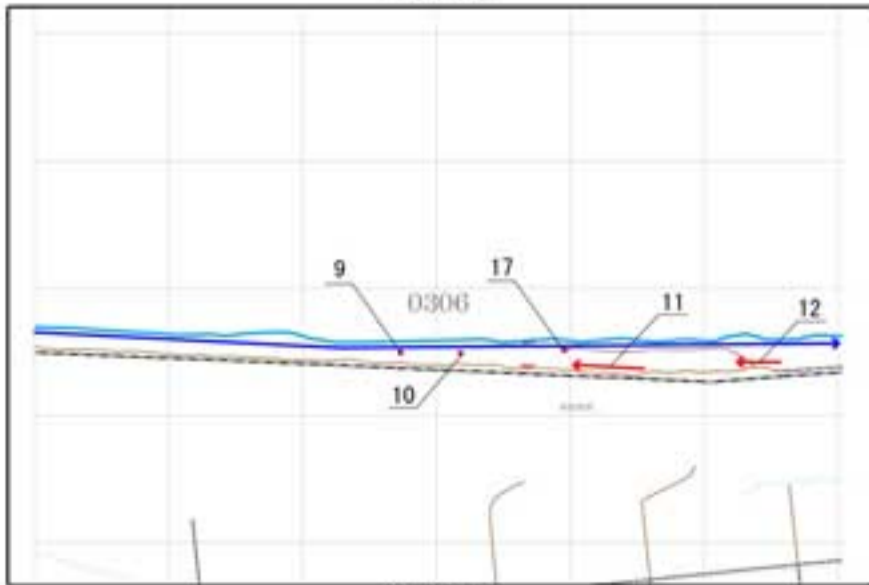


图0306

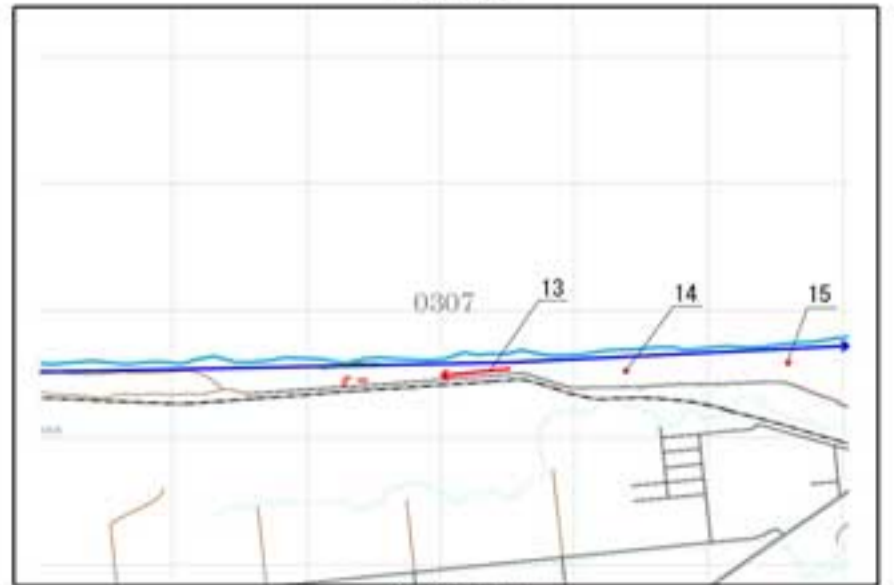


图0307

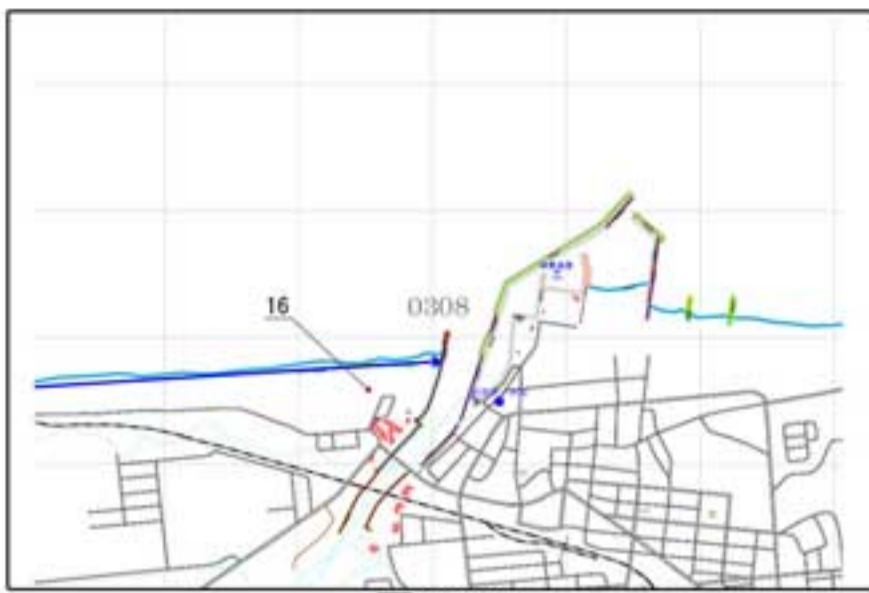


图0308

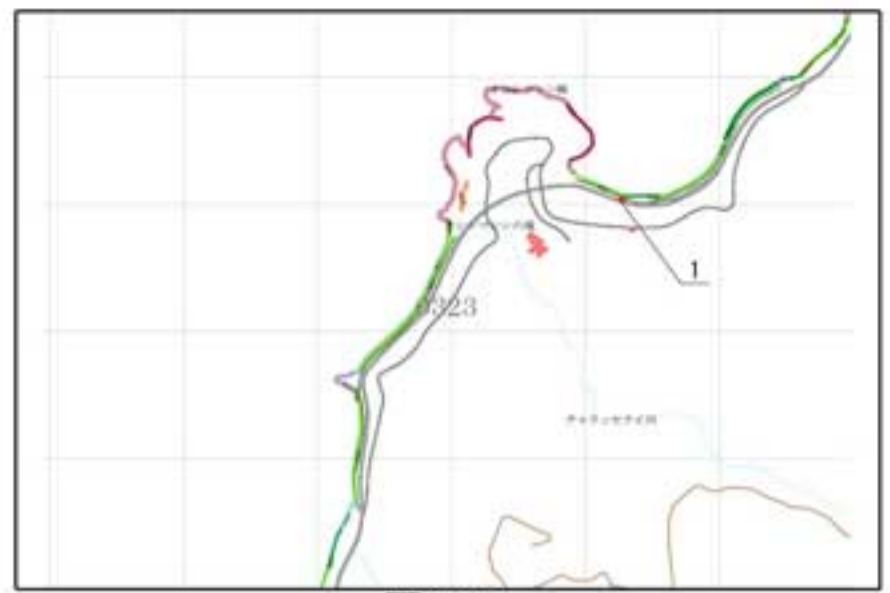


图0323

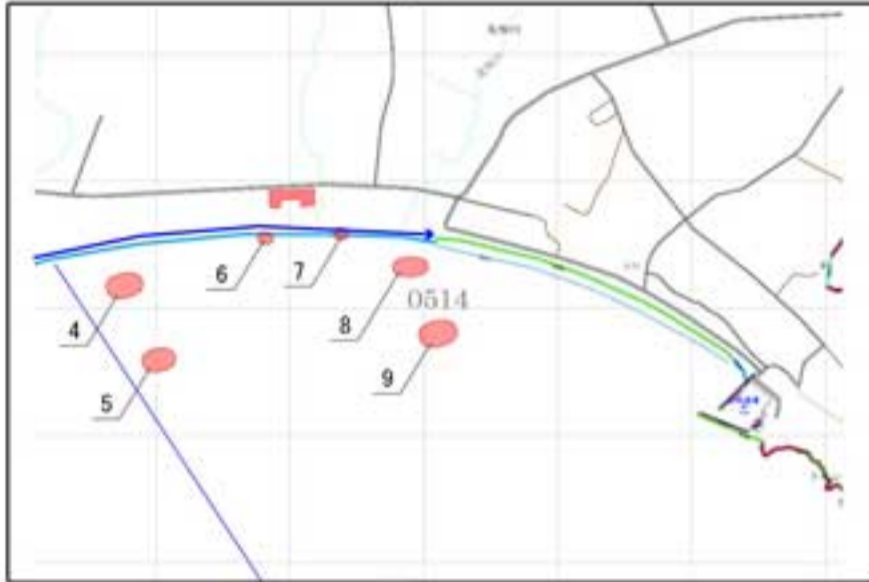


图0514

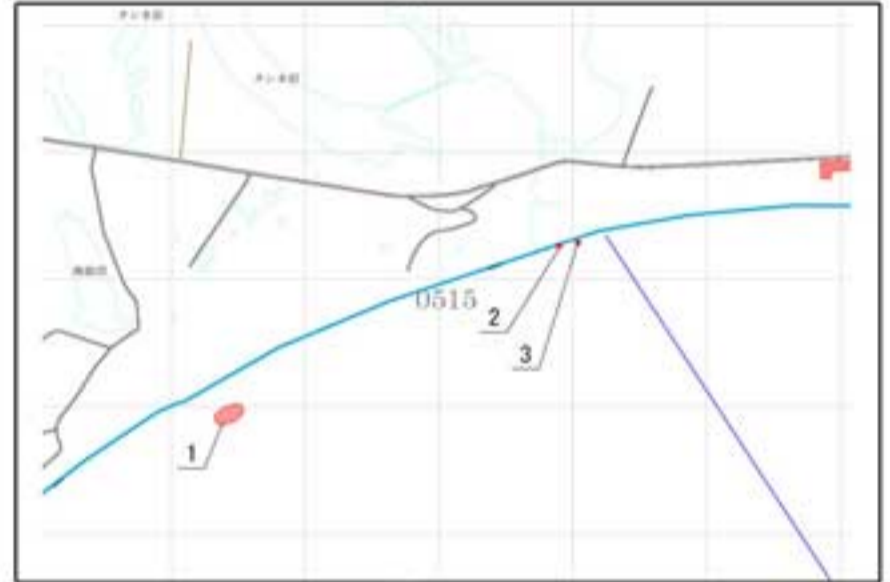


图0515

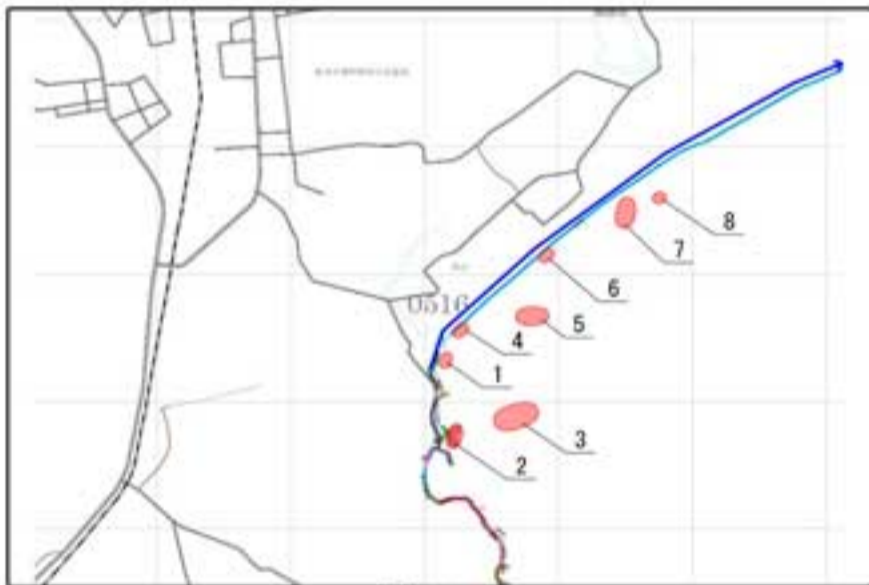


图0516

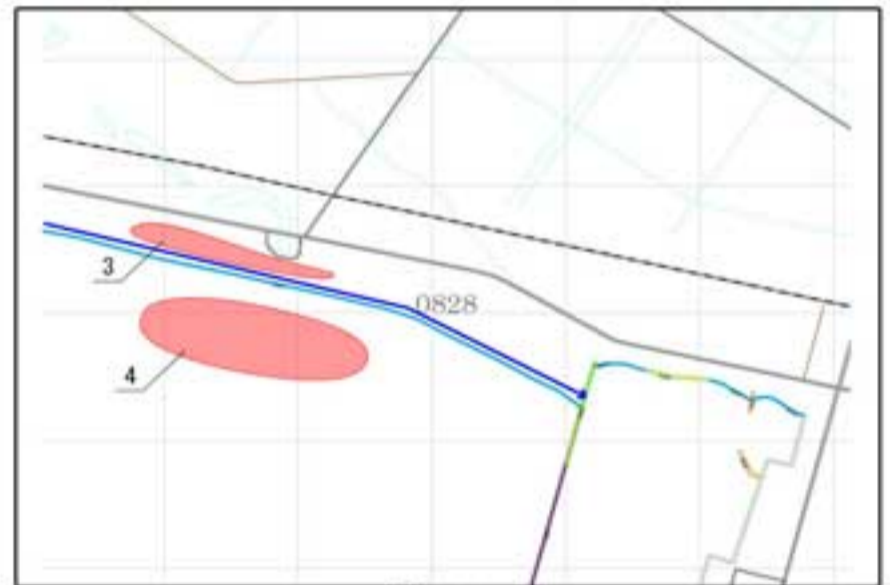


图0828

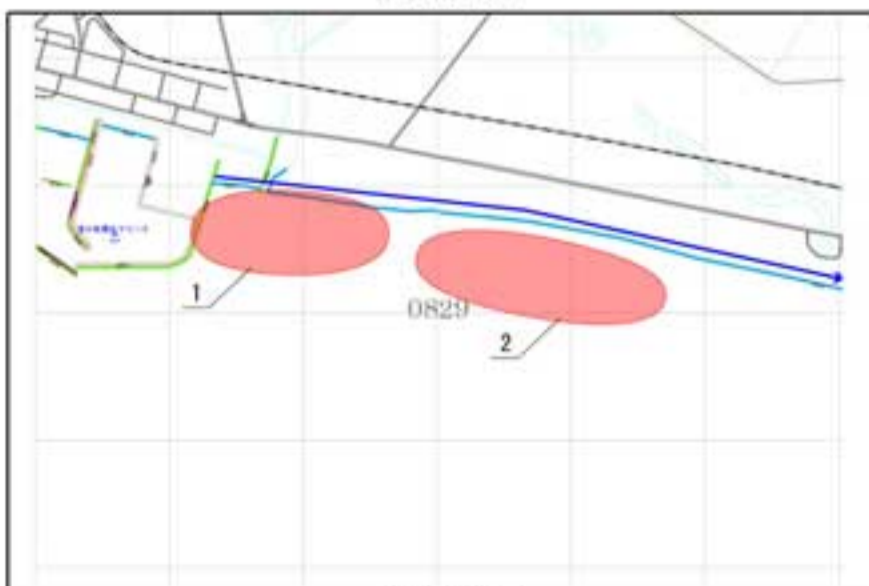


图0829

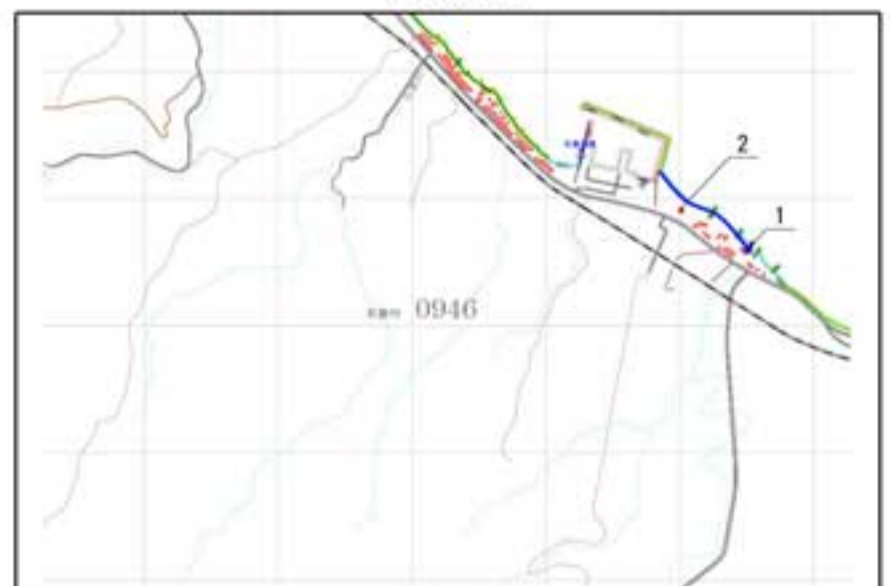


图0946

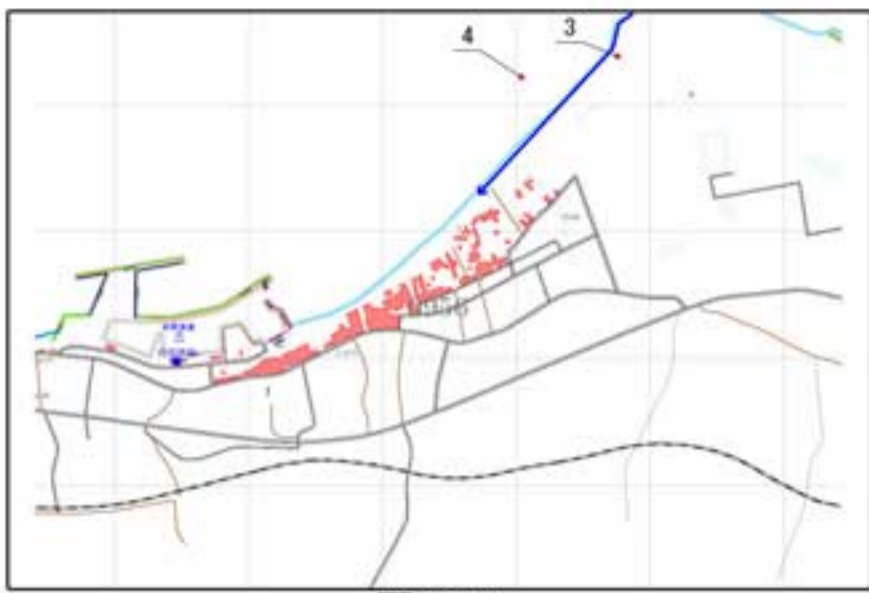


图0956

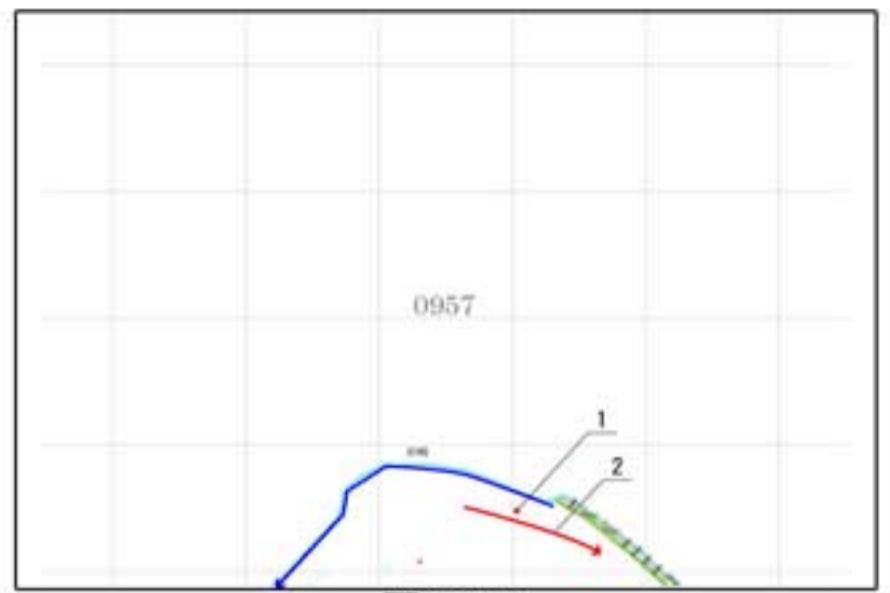


图0957



图0965



图1012



图1021

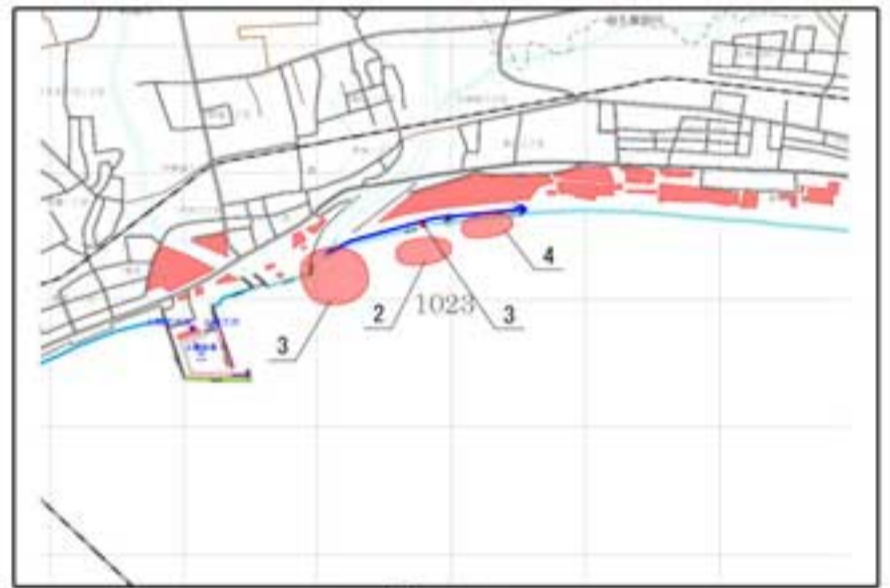


图1023



图1259

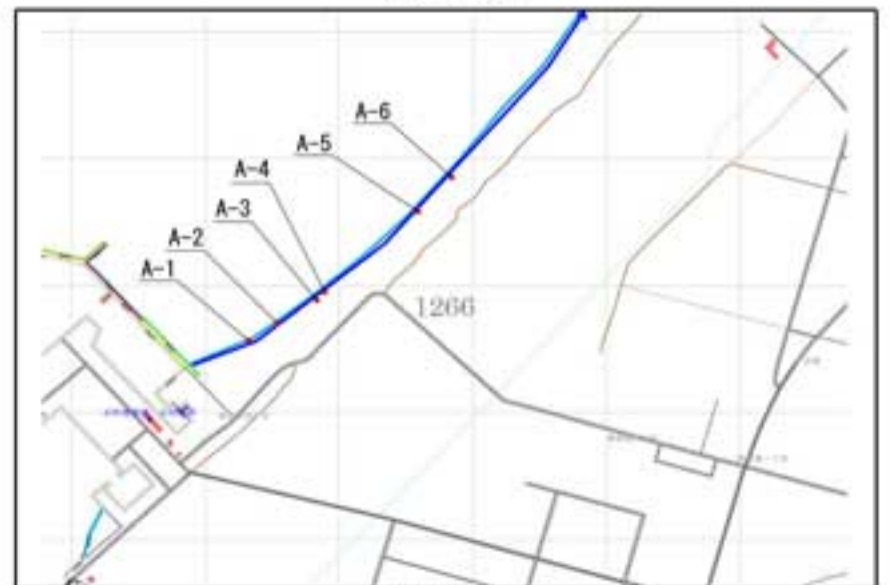


图1266

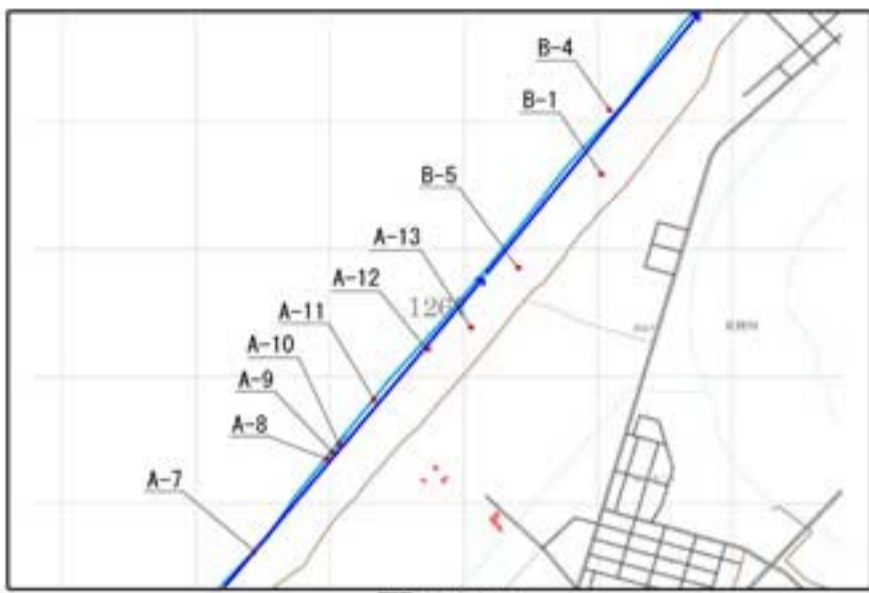


图 1267

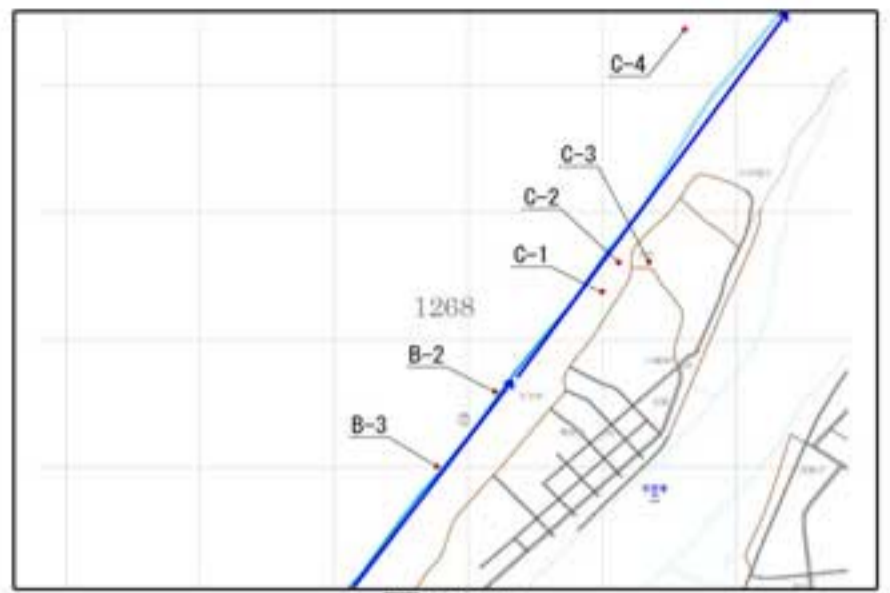


图 1268

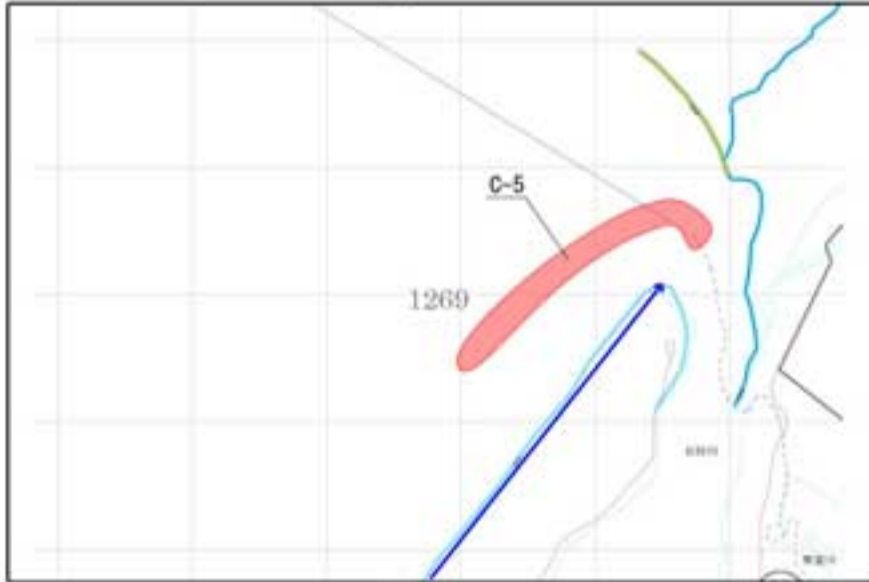


图 1269

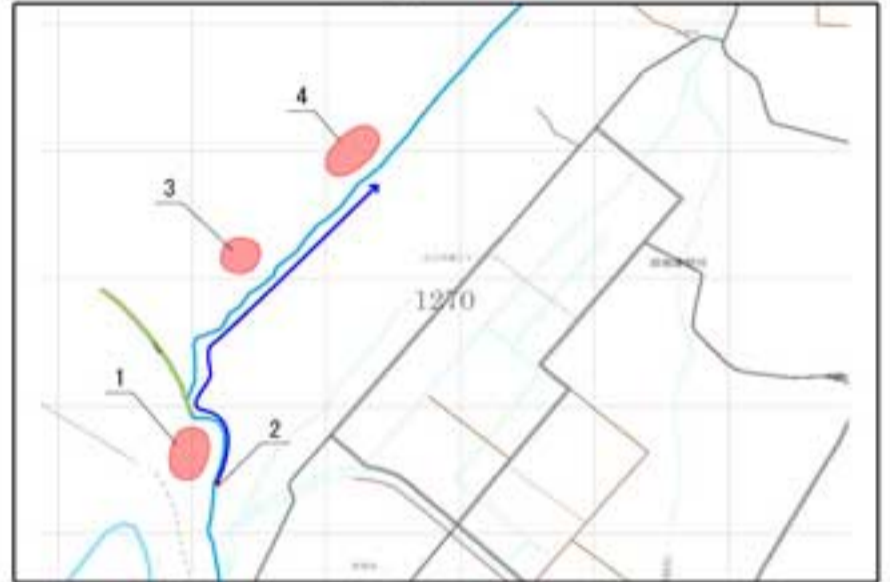


图 1270A

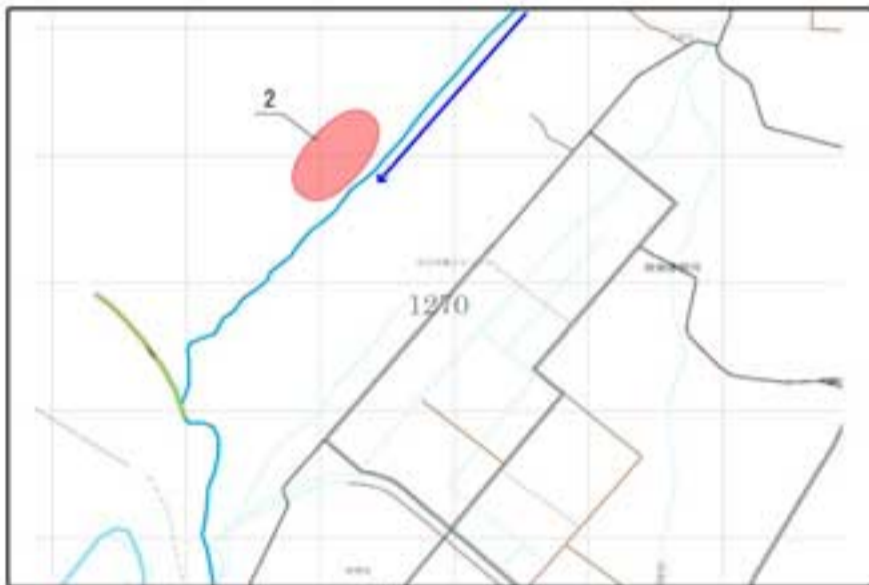


图 1270B

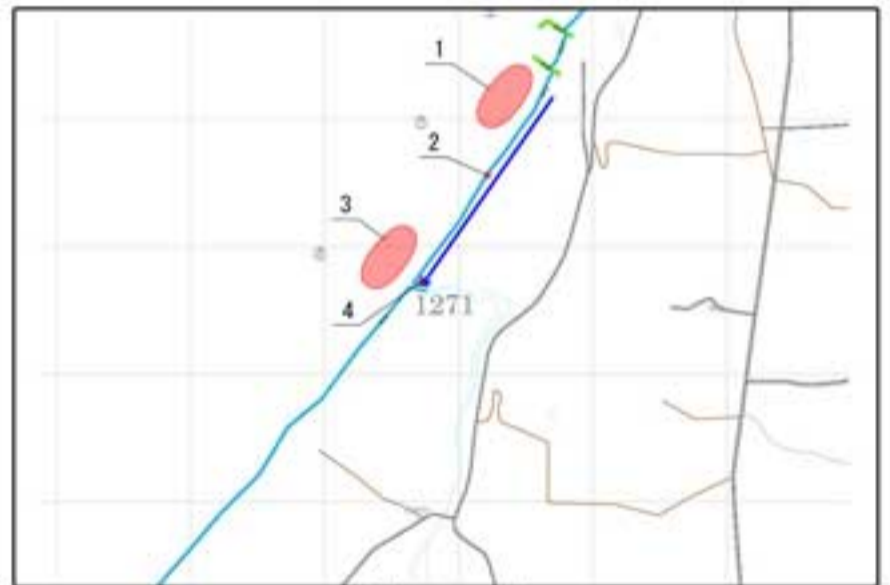


图 1271A

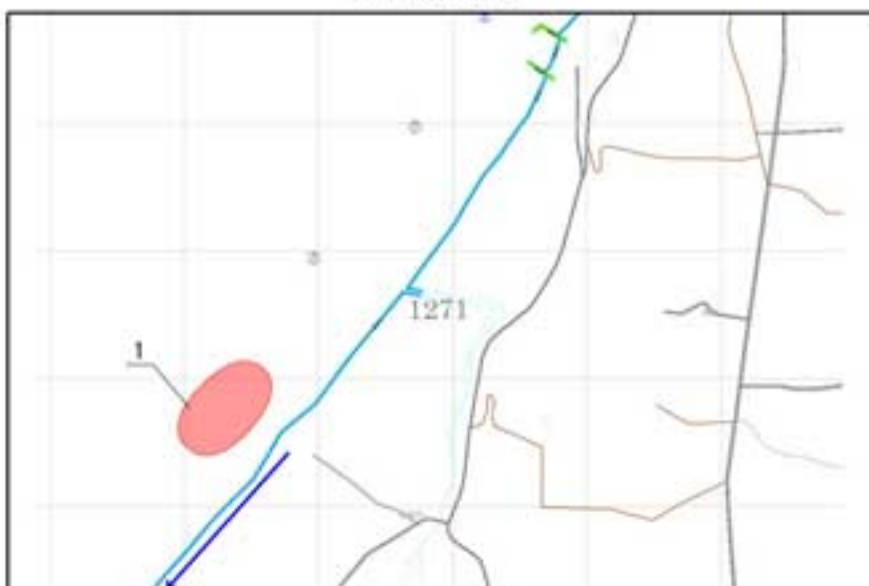


图 1271B

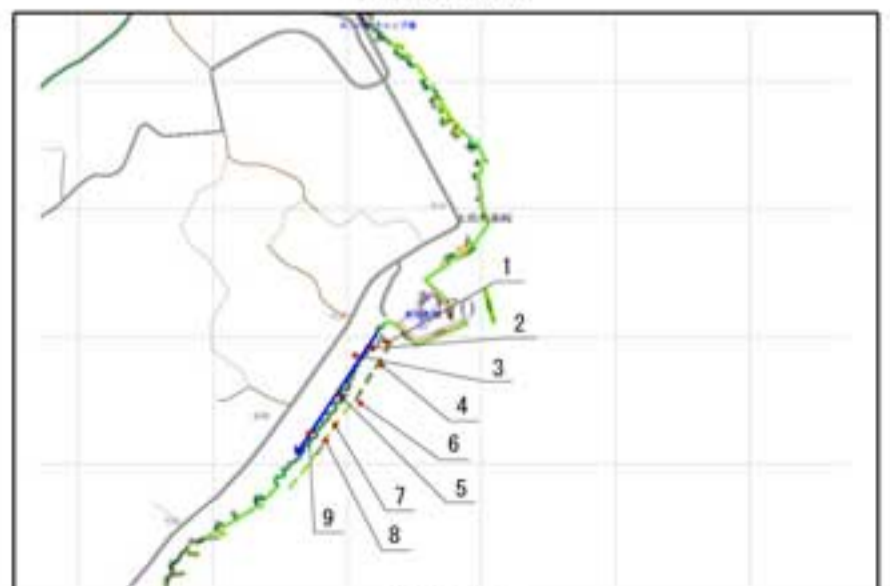


图 1470



図0256-6



図0273-6



図0287A-12



図0287A-13



図0287A-14



図0287A-15



図0287A-17

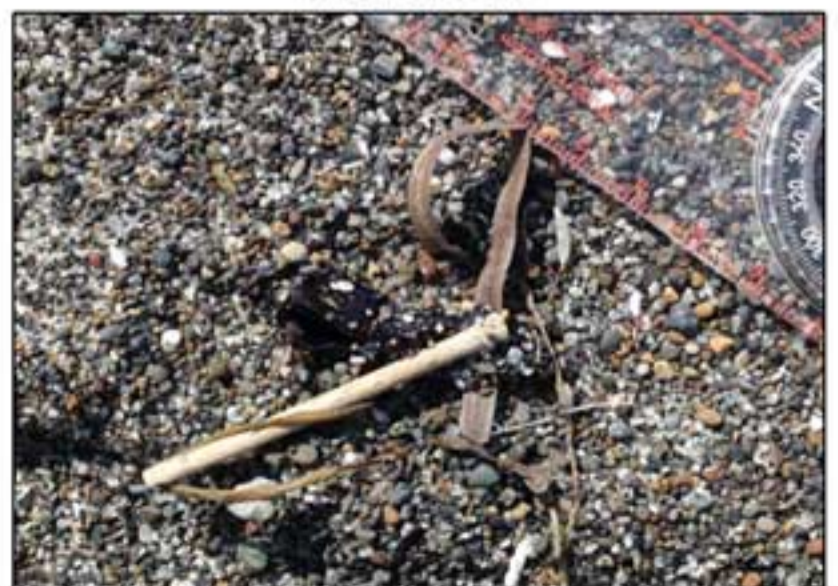


図0289B-5



図0289B-7



図0289B-9



図0295-4



図0295-5



図0296-8



図0301-3



図0301-4



図0302-10



图0302-6



图0304-2



图0323-1



图1266-A-3



图1266-A-6



图1267-A-12



图1267-A-13



图1267-B-1



图1268-C-2

## 一斉海岸調査 2009 まとめ

### 【調査結果概要】

海岸調査はオホーツク海側南部（網走支庁管内：能取湖前浜～オシンコシン崎）のほか、日本海側（石狩支庁管内、後志支庁管内、留萌支庁管内）、太平洋側（根室支庁管内、胆振支庁管内）および道南地域（渡島支庁管内）の7支庁12市町村の海岸で行われた。

このうちオホーツク海側南部では、油が付着したハシブトウミガラスの死体1羽（オシンコシン崎付近の歩道上）、油曝したオオセグロカモメ成鳥1羽（生体、北浜～藻琴川河口）、油が付着した羽毛6点（北浜～藻琴川河口、シロカモメ・ウミスズメ類）、油が付着したゴミや海草2点（止別海岸、北浜～藻琴川河口）、廃油が入ったペットボトル1点（浜小清水～止別川河口）が確認された。このほか、石狩支庁管内（石狩市：石狩浜および無煙海岸）では、直径2～8cmのタールボール4点、直径15cmのパティー1点、油が付着したミツユビカモメの死体の一部1点、油が付着したカモメ類の羽一枚が見つかるなど、油汚染鳥以外に油そのものの漂着も見られた。

一斉海岸調査はこれまでに4回行われており、初年度の2006年4月には宗谷支庁管内から釧路支庁管内にかけて調査が行われ、そのうち稚内市から小清水町にかけて油汚染鳥および油の漂着が多数確認された。また2007年および2008年の調査では、両年ともに網走支庁管内と石狩支庁管内で油が付着した羽毛や流氷、タールボール等が確認された。

これまでの結果からは、オホーツク海側および石狩浜では毎年恒常的に油そのものや、油に汚染された物質（鳥体含む）が漂着していることが推察される。

### 【調査期間】

調査日：2009年4月1日～15日（15日間、調査日数は各自任意）

※25日の情報1例を特別に含めた

### 【調査範囲】

※総調査地数：28調査地

※調査総延長：約63km

- 網走支庁管内：網走市（5地点）、斜里町（3地点）、小清水町（4地点）
- 根室支庁管内：根室市（1地点）

- 胆振支庁管内：苫小牧市（1地点）
- 渡島支庁管内：函館市（1地点）、北斗市（2地点）、鹿部町（1地点）、森町（2地点）
- 石狩支庁管内：石狩市（6地点）
- 後志支庁管内：小樽市（1地点）
- 留萌支庁管内：羽幌町（1地点）

### 【調査地別油関係漂着物】

※合計 18点（内、生体1）、ドラム缶15個

- オシンコシン崎付近（斜里町：4月3日）油曝ハシブトウミガラス死体1羽
- 濤沸湖湖口（右岸）～止別海岸（斜里町・小清水町：4月2日～10日） 廃油入りペットボトル1個、油が付着したブイ1個、ドラム缶6個
- 能取湖（左岸、右岸）（網走市：4月2日、11日） ドラム缶9個
- 北浜～藻琴川河口（網走市：4月1日） 油曝オオセグロカモメ生体1羽、油が付着した羽毛6点、油が付着した海草1点
- 石狩浜（石狩市：4月12日） タールボール4点、パティ―1点、油が付着したミツユビカモメ左翼1点
- 無煙海岸（石狩市：4月12日） 油が付着したカモメ類羽毛1点

### 【調査参加者】

相澤空見子、雨谷、石井、上村純平、梅林歌奈子、梅林弘道、大谷久仁子、大谷光良、小澤良之、川崎里実、川崎康弘、木村耕、久木田、国藤、倉沢康大、黒沢信道、黒沢優子、佐藤政寿、篠原由佳、嶋崎太郎、武田つぐみ、寺田紋子、戸梶裕樹、中田遠哉、平田和彦、舟生憲幸、馬淵良子、吉野智生、渡辺恵、渡辺義昭（50音順、敬称略）

調査にご協力くださった皆さまへ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

毎年ご参加くださる皆さま、特に酪農学園大（現役・OB）の皆さま、北海道大学水産学部北方圏生物研究会の皆さまには厚く御礼申し上げます。

2010年の調査日程は

**4月1～30日**です。

ご協力をお願い致します。